

事業報告書

平成26年度
(第5期事業年度)

自 平成26年4月 1日

至 平成27年3月31日

地方独立行政法人神奈川県立病院機構

目 次

法人の概要	1
1 名称 2 所在地 3 設立年月日 4 設立目的 5 資本金の状況	
6 組織(1) 役員 (2) 職員の状況 (3) 組織図 (4) 会計監査人	
7 業務(1) 病院の設置 (2) 業務の範囲 (3) 病院の位置図	
平成26年度における業務実績報告	
1 法人の総括と課題	4
2 大項目ごとの特記事項	
(1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	6
(2) 業務運営の改善及び効率化に関する事項	8
(3) 財務内容の改善に関する事項	8
3 病院ごとの取組状況	
(1) 本部事務局	10
(2) 足柄上病院	10
(3) こども医療センター	12
(4) 精神医療センター(芹香病院・せりがや病院)	14
(5) がんセンター	16
(6) 循環器呼吸器病センター	18
4 小項目別の業務実績	
第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	
1 質の高い医療の提供	
(1) 医療機能の充実	
ア 足柄上病院	20
イ こども医療センター	21
ウ 精神医療センター 芹香病院・せりがや病院	23
エ がんセンター	26
オ 循環器呼吸器病センター	28
カ 医療機能を評価する指標の設定	30
(2) 医療機器・施設整備の推進	
ア 医療機器整備の推進	36
イ 施設整備の推進	36
(ア) がんセンター総合整備の推進	36
(イ) 精神医療センター総合整備の推進	37
(3) 地域医療連携の強化	37
(4) 臨床研究の推進	
ア 臨床研究	39
イ 治験	40

2 安全で安心な医療の提供

- (1) 安全で安心な医療を支える医療体制の整備 4 2
- (2) 医療安全対策の推進 4 2
- (3) 感染症対策の強化 4 4
- (4) 災害対策の推進 4 5
- (5) 情報セキュリティの強化 4 6

3 患者の視点に立った病院運営

- (1) 患者にとって分かりやすい医療の提供 4 6
- (2) 県民への病院・医療情報提供の充実 5 1
- (3) 患者の利便性の向上 5 3
- (4) ボランティア・NPOとの協働 5 4

4 医療人材の確保と育成

- (1) 医師の確保と育成 5 5
- (2) 看護師の確保と育成 5 6
- (3) コメディカル職員等の確保と研修の充実 5 8
- (4) 勤務環境の改善 5 8

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 業務運営体制の確立 5 9

2 効率的・効果的な業務運営と経営改善

(1) 効率的・効果的な業務運営

- ア 人事・予算の弾力的運用 5 9
- イ 事務職員の専門性の向上 5 9
- ウ 職員の経営参画意識の向上 6 0
- エ ITの活用による効率的な医療提供の推進 6 0
- オ 効率的な事務執行の推進 6 0

(2) 経営改善の取組

- ア 収益の確保 6 1
- イ 費用の削減 6 3

第3 決算の状況 6 4

第4 その他業務運営に関する重要事項 6 6

法人の概要

1 名称

地方独立行政法人神奈川県立病院機構

2 所在地

横浜市中区本町 1 - 2

3 設立年月日

平成22年 4月 1日

4 設立目的

神奈川県における保健医療施策として求められる高度・専門医療等の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする。

5 資本金の状況

出資者（設立団体） 神奈川県

資本金の額 13,556,701,044円

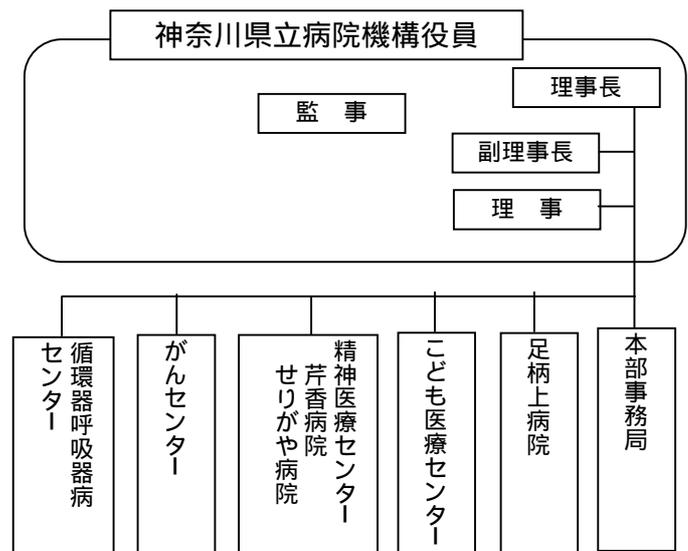
6 組織

(1) 役員 (平成 26 年 4 月 1 日)

役職	氏名
理事長	土屋 了介
副理事長	菅家 龍一
理事	山本 裕司（足柄上病院病院長）
	康井 制洋（こども医療センター総長）
	岩間 久行（精神医療センター所長）
	赤池 信（がんセンター総長）
	中沢 明紀（循環器呼吸器病センター所長）
監事	松村 有子（担当局長）
	川島 志保（弁護士）
	戸張 実（公認会計士）

(2) 職員の状況 (平成26年 4月 1日)

医師	305人
看護師	1,526人
薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等	311人
事務職等	203人
技能職	48人
合計	2,393人



(3) 組織図

右図のとおり

精神医療センターは平成26年12月に統合

(4) 会計監査人

新日本有限責任監査法人

7 業務

(1) 病院の設置

病院名	基本的な機能	診療科目	病床数
神奈川県立足柄上病院 足柄上郡松田町松田惣領 866-1	1 地域の中核的医療機関としての患者の診療(助産を含む。)及び看護 2 検診 3 健康相談及び保健衛生指導 4 医師その他の医療関係技術者の研修	内科、精神科、神経内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科	264
神奈川県立こども医療センター 横浜市南区六ツ川2-138-4	1 疾病を有する小児、妊産婦等の診療及び看護 2 健康相談及び母子保健衛生指導 3 小児医学及び周産期医学に関する調査及び研究 4 医師その他の医療関係技術者の研修 5 障害児入所施設(肢体不自由のある児童に係る病床数(50床)及び重症心身障害児に係る病床数(40床))の運営	母性内科、児童・思春期精神科、神経内科、小児科、循環器内科、アレルギー科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、矯正歯科、小児歯科、歯科口腔外科、麻酔科、病理診断科	419
神奈川県立精神医療センター 荊香病院 横浜市港南区荊が谷2-5-1 神奈川県立精神医療センター せりがや病院 横浜市港南区荊が谷2-3-1 平成26年12月に統合	1 精神障害者全般の診療及び看護(荊香病院) 2 アルコール依存症患者、薬物依存症患者、神経症患者等の診療及び看護(せりがや病院) 3 精神科医療に関する調査及び研究(荊香病院、せりがや病院) 4 医師その他の医療関係技術者の研修(荊香病院、せりがや病院)	精神科	388
神奈川県立がんセンター 横浜市旭区中尾1-1-2 (移転後:横浜市旭区中尾2-3-2)	1 がんその他の疾患患者の診療及び看護 2 がんに関する調査及び研究 3 医師その他の医療関係技術者の研修	血液内科、腫瘍内科、精神科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、循環器内科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、腫瘍整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、頭頸部外科、放射線科、放射線治療科、歯科口腔外科、麻酔科、病理診断科、緩和ケア内科	415
神奈川県立循環器呼吸器病センター 横浜市金沢区富岡東6-16-1	1 結核性疾患患者、呼吸器疾患患者及び循環器疾患患者の診療及び看護 2 肺疾患及び心臓疾患に関する専門検診 3 循環器疾患及び呼吸器疾患に関する調査及び研究 4 医師その他の医療関係技術者の研修	呼吸器内科、循環器内科、呼吸器外科、心臓血管外科、麻酔科、放射線科	239

(2) 業務の範囲

- ア 医療を提供すること。
- イ 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ウ 医療に関する技術者の研修を行うこと。
- エ 児童福祉法に規定する障害児入所施設を運営すること。
- オ 災害時における医療救護に関すること。
- カ 上記に規定する業務に附帯する業務を行うこと。

(3) 病院の位置図



足柄上病院	こども医療センター
	
精神医療センター 芹香病院	精神医療センター せりがや病院
	
がんセンター	循環器呼吸器病センター
	

平成26年度における業務実績報告

1 法人の総括と課題

地方独立行政法人神奈川県立病院機構（以下「県立病院機構」という。）は、中期目標に基づき作成した中期計画及び平成26年度年度計画の達成に向け着実に取組を進めた。

(1) 重点的な取組

がんセンターの総合整備の推進（小項目23参照）

がんセンター総合整備として、平成25年11月の新病院開院に引き続き、10月に重粒子線治療の建屋が完成し、加速器のスキャニング照射を実施するとともに、先行治療施設に医師等を派遣するなど、平成27年12月の治療開始に向けての取組を推進した。

精神医療センターの総合整備の推進（小項目24参照）

精神医療センターは、新たな精神科医療への対応や芹香病院とせりがや病院の統合による効率的な運営を図るため、建築工事を着実に進め、12月に新病院を開院した。

業務運営体制の確立（小項目45参照）

外部登用理事の任命を推進し、4月1日付けで1名を任命するとともに、理事の半数以上を外部登用理事の構成とできる定款の変更を平成27年4月1日付けで行うなど、経営及び業務の透明化を推進した。

また、病院運営に意欲がある人材を幅広く募集することを目的として、がんセンター総長及び精神医療センター所長の公募を初めて実施した。

(2) 予算の弾力的な運用（小項目47参照）

備品購入費の予算において経営成績を反映した予算配当を行い、医療ニーズに沿った予算執行を行った。

(3) 医療人材等の確保と育成（採用・定着・人事評価）（小項目41～44、48参照）

看護師について、計11回の採用試験を実施するなど人材の確保に努めるとともに、採用後についてもプリセプターシップをはじめとするきめ細かな研修を実施するとともに、パートナーシップ・ナーシング・システム®（PNS）を導入する等により定着対策に取り組んだ。また、新卒看護師の業務における不安解消の一助として、e-ラーニングによる研修制度を実施した。（小項目42参照）

事務職や福祉職、コメディカル職種などについて、主に新卒者を対象とした一般採用試験のほか、即戦力を確保するための経験者採用試験を併せて実施し、職員の確保に努めた。（小項目43・48参照）

さらに、評価者研修の実施などにより人事評価システムの適切な運用に努めた。（小項目58参照）

(4) 経営改善の取組（小項目52～56参照）

診療報酬の改定を受け、各病院の特性に応じた施設基準を取得するとともに、審査機関による審査の傾向を踏まえて、病院ごとに対策を行った。（小項目53参照）

また、未収金の発生防止対策及び早期回収については、未収金発生後長期化していた債権を含めて改めて督促を行うなどの取組を各病院で進めた結果、年度末個人未収金は減少した。（小項目54参照）

一方、費用面においては、薬品、診療材料及び検査試薬、消耗品並びに医療機器の共同入札に引き続き取り組んだ。（小項目55参照）

また、P P S（特定規模電気事業者）による電力調達や外部コンサルタントを活用した委託内容の見直しなどにより、経費の削減を図ることができた。（小項目56参照）

(5) 課題

がんセンター総合整備の推進（小項目23参照）

がんセンターは、新病院について、人員確保の課題により予定した業務量を発揮できていない機能があることから、改めて体制を確認し、整備、見直しを行う必要がある。

また、重粒子線治療施設については、平成27年12月の治療開始に向け、引き続き適応症例の検討、人材育成及び業務フローの構築等の着実な実施や、治療内容の理解を得るための広報に努めて行く必要がある。

精神医療センター総合整備の推進（小項目24参照）

精神医療センターは、新病院の開院に引き続き、外構工事や保育園の移設・建設に取り組むとともに、思春期病棟の病床利用率の向上に向け、院内及び関係機関との連携を強化する必要がある。

収益の確保（小項目52～54参照）

経営に必要な入院・外来収益を確保するため、地域医療連携強化による患者確保及びより効率的な病棟運営や手術数の増を図りつつ、的確な診療報酬上の施設基準の取得を進める。

また、精神医療センター及びがんセンターについては、総合整備により向上した医療機能を十分に発揮する必要がある。

さらに、未収金対策を強化し、適正に診療報酬を確保する必要がある。

職員の経営参画意識の向上（小項目49参照）

職員の経営参画意識を向上するため、実施している各種研修の内容を検証し、充実を図るとともに、全ての職種、部門で経営意識を醸成するよう、経営実績を反映した予算の配分について引き続き検討する必要がある。

2 大項目ごとの特記事項

県立病院機構は、県の政策医療の実施機関として、高度・専門医療の提供、地域医療の支援等を行う責務を担っており、その上で、質の高い医療を安全で安心な形で、かつ患者の視点に立って提供していくため、(1)県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上、(2)業務運営の改善及び効率化、(3)財務内容の改善について、の3つの大項目を目標として掲げ、その目標を達成するための取組を行った。

(1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

年度計画で掲げた目標を達成するため「質の高い医療の提供」「安全で安心な医療の提供」「患者の視点に立った病院運営」「医療人材の確保・育成」の4つの面から取り組み、医療の充実を図った。

ア 質の高い医療の提供

足柄上病院（小項目1～4参照）

入院時から退院を見据えた支援や入院業務を効率化するため、4月に入退院支援センターを設置するとともに、在宅療養後方支援病床を設置し、急変時における患者の受入れなどを行った。

こども医療センター（小項目5～8参照）

小児がん拠点病院として、全国的にも先駆的な小児がん医療の提供に努め、総合的な小児緩和ケアに取り組んだほか、NICUを中心とした周産期医療及び他の医療機関では実施が困難な新生児などに対する手術を実施し、小児の高度・専門医療機関としての役割を果たした。また、退院した小児患者の対応が可能となる訪問看護ステーションを増加するための支援を行ったほか、小児領域の難病・希少疾患の治験において全国で屈指の実績を挙げた。

精神医療センター 芹香病院（小項目9～11、24参照）

平成26年12月にせりがや病院と統合

精神科救急の基幹病院として、救急・急性期医療に積極的に取り組むとともに、医療観察法に基づく医療やストレスケア医療など専門的な医療を提供した。

また、精神医療センター総合整備事業として建設工事を着実に進めるとともに、芹香病院とせりがや病院の円滑な運営体制について検討を行い、12月に新病院を開院し、新たに思春期医療に対する取組を始めた。

精神医療センター せりがや病院（小項目12参照）

平成26年12月に芹香病院と統合

アルコール・薬物依存症専門病院として、様々な専門治療プログラムを提供するなど依存症医療の充実を図るとともに、国の「依存症治療拠点機関設置運営事業」に基づき、10月に神奈川県から依存症治療拠点機関としての指定を受け、依存症対策に取り組んだ。

がんセンター（小項目13～16参照）

新病院において充実を図った手術室、化学療法室、外来診察室及び高精度放射線治療装置等を効率的に稼働させ、質の高い手術、放射線治療、化学療法を実施した。

また、4月には緩和ケアセンター及び漢方サポートセンターを設置し、緩和ケアの提供体制の整備や漢方診療の実施体制の拡充を行った。

さらに、重粒子線治療施設については、平成27年12月の治療開始に向け、10月に建屋が完成し、装置のスキャニング照射試験の実施や、人材育成などの取組を推進した。

循環器呼吸器病センター（小項目17～20参照）

循環器、呼吸器疾患の専門病院として、総合的できめ細かい良質な医療を提供するため、医師をはじめ多職種連携と協力によるチーム医療を推進し、心房細動センターの開設や糖尿病専門外来チームの立ち上げ、間質性肺炎センターの設置に向けた準備等に取り組むとともに、平成27年1月に電子カルテを導入した。

また、結核病床を有する数少ない医療機関として、結核医療を着実に実施した。

イ 安全で安心な医療の提供（小項目28～32参照）

各病院において、多職種で構成するチーム活動による患者支援を行うとともに、褥瘡対策に関し、対策会議や院内ラウンドの実施など、早期発見・早期治療及び技術の向上に向けた取組を推進した。また、手指衛生に関するサーベイランス及び教育評価シートを用いた感染管理教育の実施など、感染症対策に関する取組を推進した。さらに、災害対策時に備え医薬品等の備蓄や施設整備を行うとともに、足柄上病院において新たにDMAT隊員2名を養成するなど、災害時における医療機能の体制整備を推進した。（小項目28、30、31参照）

また、平成27年4月からのメディエーションの開始に向け、研修の実施や規程等の整備を行うなど、患者と病院間の対話促進のための体制づくりに努めた。（小項目29参照）

ウ 患者の視点に立った病院運営（小項目33～40参照）

各病院において、患者や家族が治療内容を理解して適切な医療を受けられるよう、インフォームドコンセント及びセカンドオピニオンを推進するとともに、医療内容の標準化及び共有化に向けたクリティカルパスの作成及び見直しに努めた。また、患者や家族の不安軽減に向け、各部門のスタッフが多様な相談に対応し、相談体制を整備するなど、患者支援を推進した。（小項目33、34、35参照）

患者満足度調査を実施し、病院に対する評価や意見の把握や改善に取り組むとともに、待ち時間対策を推進し、患者の負担感の軽減に努めるなど利便性の向上を図った。（小項目36、38参照）

エ 医療人材の確保・育成（小項目41～44、参照）

看護師については、全国的な看護師不足の中で必要な人材を確保するため、県立5病院それぞれが実施主体となり、採用時に受験した病院に配属される配属確定型試験を8回実施した。また、県立5病院合同で本部事務局が実施する全病院対象型試験を3回実施し、合わせて計11回の採用試験を行った。その結果、看護職員数は平成27年4月1日現在で昨年度比35人増の1,561人となった。（小項目42参照）

また、事務職や福祉職のほか、薬剤師などのコメディカル職種については、一般採用試験に加え、即戦力となる経験者を対象とする経験者採用試験の2つの方法により、必要な人材を確保した。（小項目43、48参照）

これにより、常勤職員数は平成27年4月1日現在で前年同期比30人増となる2,423人

を確保した。(別表参照)

人材育成では、看護師については、キャリア形成体系に基づく研修を実施するとともに、専門看護師、認定看護師等の有資格者をその能力が発揮できるような配置を行い、事務職及びコメディカル職員については、業務の特性に応じた研修を実施する等、職員の資質の向上を図った。(小項目42、43、48参照)

さらに、評価者研修の実施などにより人事評価システムの適切な運用に努めた。(小項目58参照)

【常勤職員数】

職 種	平成26年度			平成27年度		増減数 B-A
	4月1日職員数 A(うち採用数)	平成26年度中増減要素		3月31日 職員数	4月1日職員数 B(うち採用数)	
		4月2日以降 採用数	退職者等			
医 師	305人 (61人)	18人	66	257人	304人 (47人)	1
看護師	1,526人 (156人)	16人	152	1,390人	1,561人 (171人)	35
薬剤師、診療放射線技 師、臨床検査技師等	311人 (15人)	0人	20	291人	309人 (18人)	2
事務職等	203人 (17人)	2人	20	185人	206人 (21人)	3
技能職	48人 (0人)	0人	5	43人	43人 (0人)	5
合 計	2,393人 (249人)	36人	263	2,166人	2,423人 (257人)	30

(2) 業務運営の改善及び効率化に関する事項

ア 業務運営体制の確立 (小項目45参照)

これまで総長等のみが理事であった体制から、外部登用理事の任命を推進し、平成26年4月1日付けで1名を任命するとともに、理事の半数以上を外部登用理事の構成とできる定款の変更を平成27年4月1日付けで行うなど、経営及び業務の透明化を推進した。

また、病院運営に意欲がある人材を幅広く募集することを目的として、がんセンター総長及び精神医療センター所長の公募を初めて実施した。

イ 効率的・効果的な業務運営 (小項目46～51参照)

月次決算において、単月ごとに目標達成状況を示し、計画達成に向けた取組について経営会議等で検討を行った。(小項目50参照)

共同購入に係る対象品目数を拡大し、各病院の契約事務に係る負担軽減とスケールメリットが得られるような取組を進めた。(小項目52参照)

ウ 経営改善の取組 (小項目52～56参照)

収益面では、診療報酬を適切に収入するための施設基準を迅速に取得するとともに、既存の施設基準についても的確な内容とするよう見直しを行った。(小項目54参照)

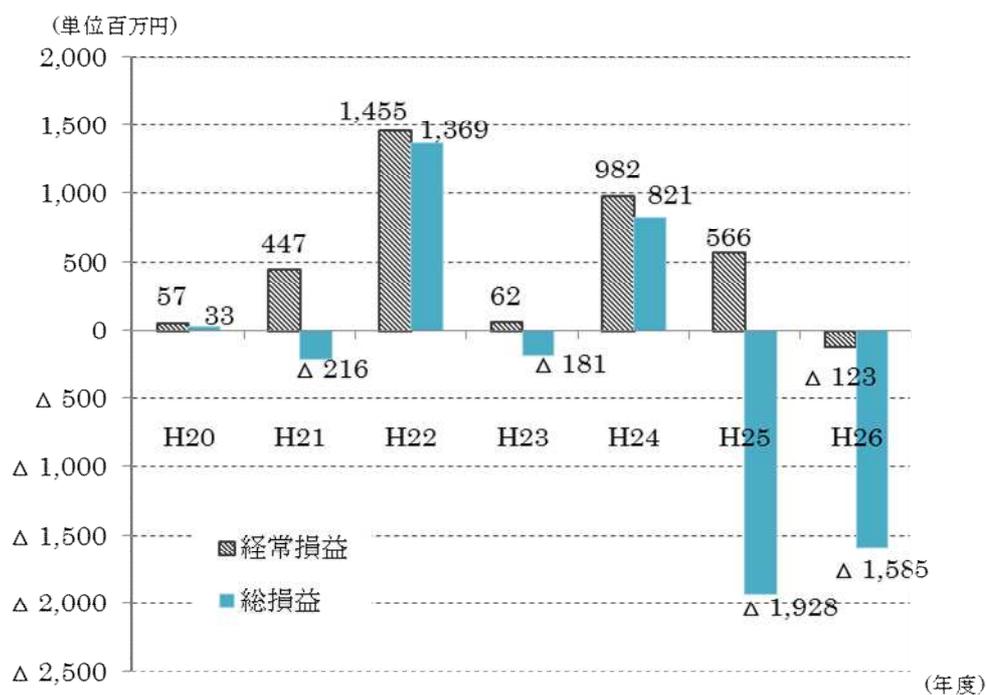
一方費用面では、PPSによる電力調達や外部コンサルタントを活用した委託内容の見直しなどにより、経費の削減を図るとともに、電力の使用量については、入院及び外来延患者数を増加させながら、抑制することができた。(小項目56参照)

(3) 財務内容の改善に関する事項 (小項目52～56参照)

病床の効率的な運用や、がんセンターの新病院の通年運用による入院収益の増などにより、医業収益は前年度対比で27億6,100万円増額した。

一方、費用面では、委託料、賃借料及び減価償却費の増により、医業費用が前年対比で26億8,400万円増額したが、院外処方の推進や後発医薬品の採用による薬品費の抑制などにより、医業収支比率、給与費比率及び経常収支比率はいずれも目標を上回ることができた。

経常収支比率	98.9%以上の目標に対し	99.8%
医業収益に対する給与費比率	62.2%以下の目標に対し	61.7%
医業収支比率	123.5%以下の目標に対し	122.2%



H20及びH21の数値は、神奈川県病院事業会計の決算数値を示す。

3 病院ごとの取組状況

(1) 本部事務局

本部事務局は、経営改善や人材の確保・育成など、法人共通の課題について着実に取組を進めた。

ア 経営改善への取組（小項目49、54参照）

月次決算において、単月ごとに目標達成状況を示し、計画達成に向けた取組について経営会議等で検討を行った。（小項目49参照）

また、未収金の回収対策について病院間で情報共有を進めるとともに、当機構以外の病院の視察を行うなど、未収金の発生防止の検討を進めた。（小項目54参照）

イ 人材の確保・育成（小項目41～44、48、58参照）

看護師について、配属確定型の採用試験と修学資金貸付制度の借受生15人全員の希望病院への配属等、確保対策に取り組んだ。さらに、育成と定着を目的として、e-ラーニングによる研修制度を実施した。（小項目42参照）

病院経営の中核を担う事務職については、病院経営分析能力等の養成・強化を図るため、簿記研修や問題解決力研修を実施するとともに、専門性の向上を目的として、診療報酬基礎セミナーを実施した。また、若手職員を対象に、配属先以外の病院において業務を体験する現場研修を実施した。（小項目48参照）

また、中堅の事務・福祉・コメディカル職員を対象に、リーダーシップの発揮の仕方、業務改善の進め方等の研修を実施し、職務遂行能力の向上を図った。（小項目49参照）

さらに、評価者研修の実施などにより人事評価システムの適切な運用に努めるとともに、人事評価実施に伴う職員の面談などを通して、職員の能力開発や人材育成を図った。（小項目58参照）

(2) 足柄上病院

足柄上病院は、足柄上地域（1市5町：南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町）を主たる医療圏として急性期医療を担う中核的病院であり、地域に必要な各種政策的医療を提供している。

当該地域は、県内でも高齢化の進んだ地域であるため、「生活習慣病の予防」「がんをはじめとする3大成人病の治療」「生活機能障害に対するケア」などの「高齢者総合医療」に取り組んでいる。

ア 医療の充実

救急医療（小項目3参照）

急性心筋梗塞などの重症患者をHCUに受け入れ、集中的治療管理を行うなど、救急医療の機能充実に努めた。

また、小田原市消防本部の要請に基づき、救急隊救急救命士の再教育研修等を実施するなど連携に努めるとともに、断らない救急医療に取り組み、救急受入れ拡大に取り組んだ。

産科医療（小項目4参照）

院内助産システムにより助産師主導の分べんを実施するとともに、助産師による妊婦検診や保健指導を行う助産師外来や母乳育児外来など、妊産婦に対するきめ細かな

指導等に取り組んだ。

高齢者総合医療（小項目2参照）

肺炎や脳梗塞等の高齢患者に対し、医師、看護師及び薬剤師等のコメディカル職員による多職種チームが家族と協力して疾病により生じる患者の生活機能障害を包括的に評価し、最適な急性期医療を提供するチーム医療を実施するなど、退院後の日常生活の質の向上に取り組んだ。

また、摂食機能障害患者の機能向上のため、摂食・嚥下診療計画書等により、患者に応じた口腔ケアや嚥下体操等を実施し、摂食・嚥下機能の向上に努めた。

その他、地域における生活習慣病予防として医学講座等を開催し、住民の意識向上に努めた。

患者サービスの向上（小項目38参照）

外来待合に医療情報提供用ディスプレイやタッチパネル式パソコンによる認知症のスクリーニング用「もの忘れ相談プログラム」及び全自動血圧計を設置し、患者が待ち時間を有効に過ごせるよう配慮した。

イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、救急患者の受入増などによる入院収益の増加等により、収益全体で1億7,800万円増加した。

一方、費用面では、給与費や材料費の増の影響などにより、全体で2億7,000万円増加した。

この結果、総損失は2億300万円となり、前年度から9,100万円増加した。

【足柄上病院 経営の状況】

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)
収益計	6,521百万円	6,700百万円	178百万円
営業収益	6,336百万円	6,553百万円	217百万円
うち医療収益	4,955百万円	5,199百万円	244百万円
営業外収益	184百万円	144百万円	40百万円
臨時利益	-	2百万円	2百万円
費用計	6,633百万円	6,903百万円	270百万円
営業費用	6,483百万円	6,758百万円	275百万円
うち医療費用	6,341百万円	6,550百万円	209百万円
営業外費用	148百万円	137百万円	10百万円
臨時損失	1百万円	7百万円	5百万円
総損益	112百万円	203百万円	91百万円
経常損益	110百万円	198百万円	87百万円

*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)	
入 院	延患者数	72,059人	75,656人	3,597人
	実患者数	6,243人	6,257人	14人
	入院収益	3,500百万円	3,728百万円	228百万円
	1人当単価	48,572円	49,285円	713円
	病床利用率	74.8%	78.5%	3.7ポイント
	平均在院日数	11.5日	12.1日	0.6日
外 来	延患者数	143,046人	141,553人	1,493人
	外来収益	1,324百万円	1,337百万円	12百万円
	1人当単価	9,257円	9,445円	188円

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)
経常収支比率	98.3%	97.1%	1.2ポイント
医療収益に対する給与費比率	71.1%	69.7%	1.4ポイント
医療収支比率	128.0%	126.0%	2.0ポイント

(3) こども医療センター

全国でも類を見ない病院部門と福祉部門とが複合した三次医療機関として、また、総合周産期母子医療センターとして、他の医療機関では診療が困難な患者を、他施設からの紹介を基本として県内外から受け入れ、多職種が連携した専門性の高い包括医療を実施した。

また、本県で唯一の小児がん拠点病院として、小児がん治療の牽引役となって、小児がん診療の質の向上に取り組んでいくことが期待されるなど、求められるニーズは高いものがある。

ア 医療の充実

小児がん拠点病院（小項目5参照）

新規に71人の小児がん患者の入院を受け入れたほか、緩和ケア外来、外来化学療法などを積極的に推進するなど外来診療を充実させた。さらに、患者の栄養支援の強化、医療機関や患者・家族に対する相談支援の充実、小児がんの治験等に取り組み、県内唯一の小児がん拠点病院としての役割を果たした。

小児医療における緩和ケア（小項目7参照）

専従の医師・看護師などからなる緩和ケアチームが中心となり、積極的な緩和ケアの提供に努め、患者・家族を精神面で支える取組を充実させたほか、患者がより安全かつ苦痛なく処置・検査を受けられるように、麻酔の提供といったアキュートペインサービスを実施した。

周産期医療・小児三次救急（小項目8参照）

NICUについて、病床利用率が恒常的に満床状態にある中、重度の先天異常の患者等、他の医療機関では治療が困難な患者をより積極的に受け入れるため、計画的運用に取り組んだ。

さらに、退院・在宅医療支援室の退院調整専従の看護師をはじめ職員が連携し、地域の医療機関との連携・調整の役割を担うなど、周産期救急の基幹病院としての役割を果たした。

地域医療連携の推進（小項目25参照）

地域医療支援病院として、地域医療連携登録の促進を図り、登録医療機関を574機関に拡大した。

また、地域医療機関の看護職員向け医療ケア実技研修会を実施するなど在宅医療を担う地域医療機関への医療支援を行い、退院患者の対応が可能となる訪問看護ステーションを189機関に拡大した。

小児治験（小項目27参照）

実施医療機関が限られている小児領域の治験について、希少疾病用医薬品や小児の抗がん剤の治験、国際共同治験を含めて30件実施したほか、全国的にも極めて稀である小児に係る医師主導治験を3件実施した。

また、小児治験ネットワークを通じた治験契約を10件受託し、他の医療機関と連携した小児医療の治験に積極的に取り組み、治験の質の向上及び効率化を図り、小児医薬品の早期開発に向けた取組を推進した。

患者サービスの向上（小項目36参照）

病棟内でお好み焼き、ハローウィンクッキー作りなどの親子イベント給食を実施し、患者の栄養支援の強化を図ったほか、ホームページをこどもも親しみやすいデザインにするなどのリニューアルを行ったほか、英語版、中国語版、韓国・朝鮮語版も整備した。

イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、患者数の増加、NICUの運用の効率化や手術料の増加等により、入院収益が4億1,300万円、高額医薬品投与の増による薬剤料収入の増等により外来収益が2億2,200万円それぞれ増加し、収益全体で5億8,100万円増加した。

反面、費用面では、高額医薬品の使用量増加が薬品費の増要因ともなり、費用全体で3億2,700万円増加した。

この結果、総利益は7億4,300万円となり、前年度から2億5,400万円増加した。

【こども医療センター 経営の状況】

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)
収益計	15,147百万円	15,729百万円	581百万円
営業収益	14,976百万円	15,534百万円	558百万円
うち医薬収益	11,309百万円	11,973百万円	663百万円
営業外収益	170百万円	191百万円	20百万円
臨時利益	-	2百万円	2百万円
費用計	14,658百万円	14,985百万円	327百万円
営業費用	14,439百万円	14,779百万円	339百万円
うち医薬費用	14,112百万円	14,304百万円	191百万円
営業外費用	211百万円	200百万円	11百万円
臨時損失	7百万円	6百万円	0百万円
総損益	489百万円	743百万円	254百万円
経常損益	496百万円	747百万円	250百万円

*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)	
入 院	延患者数	99,718人	100,487人	769人
	実患者数	7,257人	7,283人	26人
	入院収益	7,822百万円	8,236百万円	413百万円
	1人当単価	78,451円	81,962円	3,511円
	病床利用率	83.0%	83.7%	0.7ポイント
	平均在院日数	14.2日	13.8日	0.4日
入 所	延患者数	29,312人	27,504人	1,808人
	実患者数	365人	312人	53人
	入所収益	866百万円	865百万円	1百万円
	1人当単価	29,564円	31,458円	1,895円
	病床利用率	89.2%	83.7%	5.5ポイント
平均在院日数	101.1日	88.3日	12.8日	
外 来	延患者数	164,280人	168,806人	4,526人
	外来収益	2,348百万円	2,571百万円	222百万円
	1人当単価	14,299円	15,231円	933円

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)
経常収支比率	103.4%	105.0%	1.6ポイント
医薬収益に対する給与費比率	69.8%	65.8%	3.9ポイント
医薬収支比率	124.8%	119.5%	5.3ポイント

(4) 精神医療センター

＜ 芹香病院 ＞ 平成26年12月にせりがや病院と統合

精神科救急医療システムの基幹病院として、精神科救急病床を県内で最多の16床設置し、救急患者を積極的に受け入れるとともに、統合失調症、気分障害、神経症性障害などのストレス関連疾患など、依存症を除く様々なこころの障害を対象として医療を提供している。

ア 医療の充実

精神科救急医療等（小項目9～11参照）

新病院の開院により精神科救急病床を60床から70床に増床し、精神科救急医療システムの基幹病院として、措置入院患者や急激な精神症状の悪化が見られ入院が必要な患者を172件受け入れた。

また、うつ病・うつ状態の休職者や離職者の職場復帰を目的として、通所のリハビリテーションプログラム（復職支援プログラム）を実施した。さらに、新病院開院に合わせて思春期を対象とした医療を開始したほか、医療観察法の指定医療機関として、多職種チームによる手厚い医療を提供した。

精神医療センター総合整備（小項目24参照）

既存施設の老朽化や新たな精神科医療への対応及びせりがや病院との統合による効率的な病院運営を図るため、建設工事を着実に進めるとともに、患者移送や開院後の円滑な運営体制などについて詳細な検討を行い、平成26年12月に新病院を開院した。

患者サービスの向上（小項目38参照）

新病院開院に伴い、コンビニエンスストアや食堂、ATMを整備するとともに、ラウンジにテーブルやイスを設置した。

また、外来看護師が定期的にラウンドを実施し、車の乗降などを補助した。

イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、新病院開院の効果による医業収益増などにより、収益全体で6億8,500万円増加した。

一方、費用面では、旧病院の廃止に伴う臨時損失や新病院開院に係る費用の増加などにより、費用全体で11億2,900万円増加した。

この結果、前年度の総利益1億円から、総損失3億4,300万円に転じた。

【芹香病院 経営の状況】

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)
収益計	3,951百万円	4,636百万円	685百万円
営業収益	3,918百万円	4,249百万円	330百万円
うち医業収益	2,257百万円	2,398百万円	140百万円
営業外収益	32百万円	51百万円	18百万円
臨時利益	-	335百万円	335百万円
費用計	3,850百万円	4,979百万円	1,129百万円
営業費用	3,811百万円	4,222百万円	411百万円
うち医業費用	3,742百万円	4,135百万円	392百万円
営業外費用	38百万円	61百万円	23百万円
臨時損失	1百万円	696百万円	694百万円
総損益	100百万円	343百万円	444百万円
経常損益	101百万円	16百万円	85百万円

*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)	
入 院	延患者数	78,314人	83,296人	4,982人
	実患者数	781人	936人	155人
	入院収益	1,836百万円	2,089百万円	252百万円
	1人当単価	23,447円	25,082円	1,635円
	病床利用率	69.7%	72.9%	3.2ポイント
外 来	平均在院日数	132.5日	119.9日	12.6日
	延患者数	34,918人	38,300人	3,382人
	外来収益	404百万円	296百万円	108百万円
	1人当単価	11,590円	7,733円	3,856円

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)
経常収支比率	102.6%	100.4%	2.3ポイント
医業収益に対する給与費比率	120.8%	125.6%	4.8ポイント
医業収支比率	165.8%	172.4%	6.6ポイント

<せりがや病院> 平成26年12月に芹香病院と統合

依存症・中毒性精神障害の専門病院として、アルコール・薬物依存症の患者に対して治療プログラムに基づく計画的な医療を提供している。

ア 医療の充実

依存症医療の充実（小項目12参照）

アルコールや覚醒剤等の薬物による依存症を対象として、ミーティング等を取り入れた治療プログラムや家族教室を実施するとともに、国の「依存症治療拠点機関設置運営事業」に基づき、10月に神奈川県から依存症治療拠点機関としての指定を受け、医師、自助団体等からなる対策協議会を開催するなど、依存症対策に取り組んだ。

また、覚せい剤や危険ドラッグなどの薬物の再乱用防止を図るため、医師、看護師、ケースワーカーがそれぞれの専門性を生かし、認知行動療法や動機付け面接法などを取り入れた包括的な集団治療プログラムであるS M A R P P（Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program）による治療の充実を図った。

さらに、県と連携して県内の中学校等で開催される薬物乱用教室に職員を派遣し、啓発活動を行った。

イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、芹香病院との統合に伴う患者調整の影響等により医業収益が減少し、収益全体で1億3,900万円減少した。

費用面では、旧病院廃止に伴う臨時損失の増加により、費用全体で2億1,300万円増加した。

この結果、総損失は4億2,000万円となり、前年度から、3億5,200万円増加した。

【せりがや病院 経営の状況】

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)
収益計	779百万円	640百万円	139百万円
営業収益	770百万円	553百万円	216百万円
うち医業収益	464百万円	274百万円	190百万円
営業外収益	8百万円	6百万円	2百万円
臨時利益	-	80百万円	80百万円
費用計	847百万円	1,060百万円	213百万円
営業費用	836百万円	512百万円	323百万円
うち医業費用	823百万円	499百万円	324百万円
営業外費用	9百万円	6百万円	2百万円
臨時損失	1百万円	541百万円	539百万円
総損益	67百万円	420百万円	352百万円
経常損益	66百万円	40百万円	106百万円

*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)	
入 院	延患者数	14,355人	7,453人	6,902人
	実患者数	355人	204人	151人
	入院収益	254百万円	133百万円	120百万円
	1人当単価	17,695円	17,950円	255円
	病床利用率	49.2%	38.2%	11.1ポイント
外 来	平均在院日数	45.9日	39.3日	6.6日
	延患者数	15,979人	9,826人	6,153人
	外来収益	207百万円	138百万円	68百万円
	1人当単価	12,966円	14,091円	1,125円

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)
経常収支比率	92.2%	107.8%	15.7ポイント
医業収益に対する給与費比率	116.7%	113.2%	3.5ポイント
医業収支比率	177.4%	182.1%	4.7ポイント

(5) がんセンター

手術、化学療法、放射線治療などがんに関する高度・専門医療を実施するとともに、がんワクチンセンター、漢方サポートセンター、緩和ケアセンターなどがん治療の充実強化を目指した新たな取組を進めた。また、がんの診断や治療に関する人材の育成に努めた。

さらに、重粒子線治療施設の整備について、治療開始に向けた取組を推進した。

ア 医療の充実

都道府県がん診療連携拠点病院の取組（小項目15、16参照）

都道府県がん診療連携拠点病院として緩和ケアセンターを設置し、緩和ケアの提供体制を整備した。また、がん治療の均てん化を進めるため、がん臨床講座や緩和ケア研修など、県内の医療従事者を対象に研修等を開催するとともに、地域がん診療連携拠点病院による研修の連携や地域の医療機関も参加できる合同カンファレンスを実施した。

さらに、がん診療に関する専門医を育成することを目的としたがん専門医臨床研修（後期臨床研修）制度により5名を採用し、専攻する診療科を中心とした研修を実施した。

がんセンター総合整備の推進（小項目23参照）

平成27年12月の重粒子線治療の開始に向け、10月に建屋の引き渡しを受けるとともに、装置の照射試験を開始するなど計画を着実に進めた。また、平成27年2月には県民を対象とした講演会を開催するなどの広報活動を推進した。

臨床研究の推進（小項目26・27参照）

医薬品等の新規承認や適用拡大に向けた治験及び医師主導型の臨床試験等を積極的に推進したほか、臨床研究所を中心に、新たながん治療法・診断法の開発を行った。また腫瘍組織の収集を継続するとともに、4月にがんワクチンセンターを設置し、がんペプチドワクチンを中心とした免疫療法の研究を開始した。

安全で安心な医療の提供（小項目28・29参照）

褥瘡対策チームによる定期的な回診の実施や、褥瘡の早期発見や予防対策の啓発に取り組むとともに、体圧分散マットレスを全病床分整えるなど、褥瘡発生予防対策を推進した。また、化学療法患者を対象とした栄養・料理教室を開催したほか、管理栄養士による個別・集団栄養指導や栄養サポート外来、さらに栄養サポートチーム（NST）による栄養管理向上への取組など、患者の状況に合わせた適切な栄養療法による生活の質の向上を図った。

医療安全では、通年で研修を行い、全職員の医療安全意識の向上を図った。

患者の視点に立った病院運営（小項目34参照）

患者支援室等で、患者や家族等に対して経済的問題や家庭環境に係る医療福祉相談など、幅広い相談に応じた。また、相談個室、患者向けの情報コーナー、患者サロンにおいてがんに関する情報提供やピア・サポートに取り組むことで、患者・家族のがんに対する不安や疑問に対応した。

患者サービスの向上（小項目38参照）

会計、入退院・検査予約や相談などの窓口の一元化を図るワンストップサービスの提供を継続することによって、待ち時間の負担を軽減した。また、栄養改善レシピの献立配布や入院患者の嗜好調査を行うなど、患者サービスの向上を推進した。

イ 経営の状況

前年度に比べ、新病院の通年化運用による患者増により医業収益が増加し、収益全体で19億2,800万円増加した。

一方、費用面では、新病院の委託料の増により医業費用が増加し、臨時損失が大幅に減少したものの、費用全体では8億7,200万円増加となった。

この結果、総損失は12億300万円となり、前年度から10億5,500万円減少した。

【がんセンター 経営の状況】

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)
収益計	14,828百万円	16,757百万円	1,928百万円
営業収益	14,513百万円	16,462百万円	1,949百万円
うち医業収益	12,156百万円	14,127百万円	1,971百万円
営業外収益	250百万円	292百万円	41百万円
臨時利益	64百万円	2百万円	62百万円
費用計	17,088百万円	17,960百万円	872百万円
営業費用	14,290百万円	16,987百万円	2,696百万円
うち医業費用	13,855百万円	16,259百万円	2,404百万円
営業外費用	254百万円	357百万円	102百万円
臨時損失	2,542百万円	615百万円	1,926百万円
総損益	2,259百万円	1,203百万円	1,055百万円
経常損益	218百万円	590百万円	808百万円

*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)	
入 院	延患者数	116,567人	125,723人	9,156人
	実患者数	9,003人	10,186人	1,183人
	入院収益	7,558百万円	8,467百万円	909百万円
	1人当単価	64,844円	67,354円	2,510円
	病床利用率	77.0%	83.0%	6.0ポイント
平均在院日数	13.4日	12.7日	0.7日	
外 来	延患者数	184,311人	215,235人	30,924人
	外来収益	4,208百万円	5,049百万円	841百万円
	1人当単価	22,834円	23,460円	627円

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)
経常収支比率	101.5%	96.6%	4.9ポイント
医業収益に対する給与費比率	48.2%	44.4%	3.7ポイント
医業収支比率	114.0%	115.1%	1.1ポイント

(6) 循環器呼吸器病センター

狭心症、心筋梗塞や不整脈等の循環器疾患、肺がんや間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患等の呼吸器疾患について、専門医療機関として、質の高い総合的な医療を提供している。

また、多剤耐性結核対策等の結核医療を継続的に実施し、社会的使命を果たしている。

ア 医療の充実

総合的な循環器医療の推進（小項目17参照）

不整脈疾患に対する診療を充実させるため、5月に心房細動センターを設置し、チームによる診療体制を構築するとともに、11月にはカテーテルアブレーション専門外来を開設し、適応患者の受け入れ拡大を図った。

また、糖尿病専門外来チームを立ち上げ、多職種で糖尿病コントロールや療養指導に取り組んだ。

心臓手術では、弁膜症手術を中心に安定した実績をあげるとともに、大動脈疾患について、従来の開胸手術に加えてステントグラフト治療を開始し、大動脈疾患に対する治療選択肢の拡大を図った。

肺がん治療等の強化（小項目18、19参照）

肺がんについて、呼吸器内科・外科はもとより放射線科、病理検査、薬剤、看護等各部門が緊密に連携し、包括的医療を提供した。

また、間質性肺炎診療については、国内の中核的役割を担う医療機関として、全国の医師等を対象とした症例検討会を定期的で開催するなど、診療レベルの向上に努めるとともに、外来患者の増加に対応するため、院内の組織体制の強化を進めた。

結核対策（小項目20参照）

結核入院患者の高齢化や重症化が進んでいることから、10月に入院基本料10対1看護基準を取得し、より手厚い看護配置を行ったほか、結核菌排菌患者の手術時における空気感染対策を強化するためポータブル陰圧装置を導入するなど、結核専門医療機関としての診療体制の整備に努めた。

臨床研究の推進（小項目27参照）

米国臨床腫瘍学会において、抗がん剤の治験について口演発表を行うなど情報発信を推進したほか、新規抗がん剤（抗体薬）の治験に積極的に取り組むなど、治験実施医療機関としての認知度を高めた。

また、治験管理事務の体制を強化し、マイルストーン方式の採用をはじめ迅速かつ効率的な事務に努め、治験の受託拡大を図った。

ITの活用と患者サービスの向上（小項目38、50参照）

平成27年1月に電子カルテを導入し、ITの活用による効率的な医療の提供を推進するとともに、電子カルテの稼働に合わせて、診察の進行状況を表示する案内板を外来各所に設置し、患者が待ち時間を安心して過ごせるよう改善するなどの患者サービス向上に取り組んだ。

イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、手術件数の減少等により、収益全体で1億5,400万円減少した。

一方、費用面では、電子カルテの導入に伴う賃借料や委託料の増加があったものの、材料費の減少があったため、費用全体で1億1,300万円減少した。

この結果、総利益は1億3,400万円となり、前年度から4,000万円減少した。

【循環器呼吸器病センター 経営の状況】

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)
収益計	6,799百万円	6,645百万円	154百万円
営業収益	6,597百万円	6,538百万円	59百万円
うち医業収益	5,280百万円	5,211百万円	68百万円
営業外収益	201百万円	105百万円	95百万円
臨時利益	-	0百万円	0百万円
費用計	6,624百万円	6,510百万円	113百万円
営業費用	6,497百万円	6,381百万円	116百万円
うち医業費用	6,343百万円	6,154百万円	188百万円
営業外費用	121百万円	110百万円	10百万円
臨時損失	5百万円	19百万円	13百万円
総損益	175百万円	134百万円	40百万円
経常損益	180百万円	153百万円	27百万円

*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)	
入 院	延患者数	64,185人	64,208人	23人
	実患者数	4,524人	4,230人	294人
	入院収益	3,372百万円	3,294百万円	78百万円
	1人当単価	52,542円	51,307円	1,234円
	病床利用率	73.6%	73.6%	0.0ポイント
	平均在院日数	14.6日	14.8日	0.2日
外 来	延患者数	92,198人	95,856人	3,658人
	外来収益	1,721百万円	1,726百万円	4百万円
	1人当単価	18,672円	18,008円	665円

区 分	平成25年度	平成26年度	差引(26-25)
経常収支比率	102.7%	102.4%	0.4ポイント
医業収益に対する給与費比率	52.6%	53.8%	1.2ポイント
医業収支比率	120.1%	118.1%	2.0ポイント

4 小項目別の業務実績

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 質の高い医療の提供

(1) 医療機能の充実

ア 足柄上病院

地域の中核的医療機関としての取組（小項目1）

- ・入退院支援センターを4月に設置し、入院時の説明やアナムネ等の業務を行うとともに、入院中・退院後に発生しうる問題について早期に介入するなど退院に向けた支援・調整を行った。
- ・入退患者が退院後、不安のない療養生活を送れるよう在宅療養後方支援病床を設置するとともに、在宅での療養生活を医療面から支援する訪問診療を実施した。
- ・平成26年度は内視鏡検査件数が目標値4,000件に対して4,181件（+181件）と増加しているが、治療件数が目標値900件に対して897件（-3件）とほぼ同数であった。

[内視鏡検査・治療件数の実績と目標値]

区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度		平成26年度	
			目標値	実績	目標値	実績
検査件数	3,234件	3,608件	3,900件	4,017件	4,000件	4,181件
治療件数	605件	751件	850件	908件	900件	897件

- ・平成26年度は鏡視下手術の件数が目標値180件に対して284件（+104件）と増加した。

[鏡視下手術件数の実績と目標値]

平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度		平成26年度	
		目標値	実績	目標値	実績
134件	155件	150件	225件	180件	284件

高齢者総合医療の推進（小項目2）

- ・高齢患者に対して入院時から生活機能の向上を目指して歩行・移動等10項目のバーセルインデックスにより日常の生活動作の評価を活用し、カンファレンス・個別の計画を実施した。その結果、トイレを除く歩行や移動動作などの項目が入院時と比べ、退院時には上回った。
- ・入院時から地域医療連携室が関わり、地域医療機関や家族と連絡をとり、共同指導や家族指導等を通じて退院支援を行った。
- ・患者の症状に対応した摂食・嚥下診療計画書及び実施計画書に基づき、口腔ケアの実施など摂食・嚥下機能の向上に取り組んだ。

[摂食機能療法件数の実績と目標値]

平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度		平成26年度	
		目標値	実績	目標値	実績
1,104件	2,785件	2,900件	6,478件	6,500件	5,207件

救急医療の取組（小項目3）

- ・平成26年度HCUは急性心筋梗塞などの重症患者を延1,195人（前年度+441人）を受け入れ、専門的・集中的治療を行った。
- ・小田原市消防本部等の連携に努め要請に基づき、救急隊救急救命士の再教育研修等を受け入れた。

また、近隣の消防救急隊との連携を強化するため、秦野市消防本部等との研修会を実施した。

- ・救急車受入件数については、目標値2,800件に対して3,126件（+326件、+11.6%）増加した。

[年間救急受入の実績と目標値]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	目標値	実績								
救急依頼件数	-	-	-	12,439件	-	12,281件	-	11,329件	-	11,669件
うち救急受入件数	11,900件	11,872件	12,000件	11,808件	12,000件	11,744件	12,000件	10,841件	12,000件	11,182件
うち救急車受入件数	-	-	-	2,556件	-	2,705件	2,600件	2,967件	2,800件	3,126件
うち入院患者数	-	-	-	2,360人	-	2,619人	-	-	-	-

救急依頼件数と救急受入件数の差分は受入できなかった件数
平成26年度487件（平成25年度488件）

産科医療体制の充実（小項目4）

産婦人科医師の負担軽減を図るため、院内助産システムにより助産師主導の分べんを実施するとともに、引き続き産婦人科医師の必要数の確保に向けて取り組んだ。また、助産師は週3回助産師外来で妊婦健診や保健指導を行うとともに、週1回の母乳育児外来で育児相談等の業務を行うなど、妊婦・分娩・育児に必要な知識や情報を提供し、妊産婦との信頼関係を築くよう心がけた。

さらに、退院後も母乳育児を行っている親子をサポートするための集いを定期的に年2回開催した。

[分べん件数（助産師分べん件数）の実績と目標値]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	目標値	実績								
分べん件数	250件	253件	250件	171件	180件	178件	240件	185件	240件	194件
うち助産師分べん件数	40件	73件	150件	154件	180件	155件	200件	147件	200件	165件

イ こども医療センター

小児がん拠点病院（小項目5）

- ・行政機関、県内の小児がん診療機関等と連携し、役割分担の体制整備などの目的で、2月に「神奈川県地域小児がん医療提供体制協議会」を設置した。
- ・全国で小児がんの新規発症患者数が年間2,000人から2,500人（出典：厚生労働省資料）と言われる中、前年度より12人多い171人の小児がん患者を新規に入院で受け入れた。

[小児がん患者新規入院件数の実績と目標値]

平成26年度	
目標値	実績
50件	71件

・緩和ケア外来を39件、外来化学療法を228件、小児がん経験者内分泌外来を3回実施したほか、小児がん患者を対象とした退院後訪問看護を実施する体制を整えたなど、在宅の小児がん患者の増加に対応し、外来診療のより一層の充実を図った。

・小児がん相談支援室による患者・家族向けのセミナー、学校教諭などを対象とした支援者研修のほか、小児がん拠点病院看護部門人材交流研修を各1回ずつ開催した。

- ・患者の栄養支援の強化を図るため、バイキングや野菜収穫体験給食などのイベン

ト給食、がん治療中の食事の工夫などをまとめた「小児がんと栄養」の刊行、小児がん患者とその家族を対象にグループ栄養相談を3回実施した。

- ・小児がん相談支援室が中心となり、医療・教育機関や患者・家族への1,107件の相談支援に取り組んだ。

- ・院内腫瘍症例検討会を46回、大学病院の医師を交えた腫瘍症例検討会を3回開催するなど、小児がん治療に関する知識・技術の向上を図った。

- ・小児の抗がん剤の治験について1件実施しているほか、がん領域の治験についても2件実施し、小児がん患者の治療に貢献している。なお、平成27年度からCRCの増員など治験管理室の機能強化が図られることが決まった。

手術体制の充実（小項目6）

手術件数は前年度比23件減の3,647件となり、目標値3,800件に対し95.9%の達成率となった。

また、心臓血管外科手術は333件となり目標値を3件、新生児手術件数は150件となり目標値を20件、乳児外科施設基準対象手術件数は64件となり目標値を4件、内視鏡手術件数は169件となり目標値を9件それぞれ上回った。

[手術件数の実績と目標値]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	目標値	実績								
手術件数	3,770件	3,684件	3,800件	3,584件	3,800件	3,568件	3,800件	3,670件	3,800件	3,647件
うち心臓血管外科手術	-	376件	-	404件	400件	332件	350件	329件	330件	333件
うち新生児手術件数	135件	229件	130件	143件	160件	128件	150件	154件	130件	150件
うち乳児外科施設基準対象手術件数	-	86件	40件	112件	105件	77件	110件	64件	60件	64件
うち内視鏡手術件数	-	-	-	105件	-	120件	120件	139件	160件	169件

緩和ケアの取組（小項目7）

- ・医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、保健師、医療ソーシャルワーカー及びファミリードッグとそのハンドラーからなる緩和ケアチームが中心となって、緩和ケアの提供にあたった。介入症例は前年度比4件増の21件、医療スタッフや患者・家族からの相談件数は前年度比32件増の77件、病棟で開催されるケースカンファレンスへの参加回数は前年度比31件増の62件となり、より積極的に活動した。

- ・緩和ケア外来を39人に実施し、地域に暮らす小児患者とその家族の生活の質の向上を図ったほか、がん患者指導管理料の算定も可能となった。

- ・地域の医療機関等を対象に小児緩和ケアセミナーや小児がん拠点病院看護部門人材交流研修を4回、院内研修会を3回開催し、小児緩和医療の普及啓発を図った。

- ・アキュートペインサービスを実施し、疼痛を伴う処置及び検査に対する不安並びに手術後も含めた疼痛の緩和を図った。また、主に病院職員を対象とするアキュートペインサービスに関する勉強会を3回開催し、その普及・啓発を図った。

- ・周産期総合医療施設の特性を活かし、従来から提供されてきた周産期緩和ケア、グリーフケアのさらなる普及と推進を図ることを目的に、周産期緩和ケアワーキンググループで6回のワーキングセッションを開催した。

[緩和ケアに関する取組の実績と目標値]

区分	平成24年度 実績	平成25年度		平成26年度	
		目標値	実績	目標値	実績
緩和ケア外来患者数	-	30人	56人	40人	39人
アキュートペインサービス					
侵襲の強い処置に対する全身麻酔提供	12件	25件	24件	30件	23件
PCAポンプを用いた症状緩和	17件	20件	19件	20件	13件
手術後の疼痛緩和	139件	150件	130件	135件	130件

周産期救急医療・三次救急医療の取組（小項目 8）

- ・全国的なNICU不足の中、NICU病床21床に対し、1日平均21.0人を受け入れており、満床が常態化している。また、包括的な医療を要する重度の先天異常の患者も毎年200人前後受け入れている。こうした中、NICUの受入実患者数は、新生児病棟における適切な病床管理の取組などの効果で、目標値の600人に対し、680人となった。
- ・NICUの計画的運用を図ったことにより、算定期間に上限のある新生児集中治療室管理料算定患者数が1日あたり19.7人と、平成23年度の14.9人、平成24年度の15.4人、前年度の17.7人から改善した。
- ・在宅医療への移行の推進を図るため、退院・在宅医療支援室の退院調整専従の看護師をはじめ多職種が連携し、439件の退院支援カンファレンスを行ったほか、長期入院が予定される新生児の親を対象に両親学級を開催し、母子分離による育児不安の軽減を図り、社会的入院日数の減少を図り、受入実患者数の増加に繋げた。
- ・救急受入件数のうち入院患者数は、前年度対比91人増の1,507人に達し、三次救急医療機関としての役割を果たした。

[周産期救急の実績と目標値]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	目標値	実績								
NICU受入実患者数	600人	543人	600人	581人	600人	653人	600人	601人	600人	680人
超低出生体重児入院件数	-	56件	55件	42件	55件	33件	55件	45件	45件	49件
依頼医療機関から斡旋医療機関への新生児搬送件数	-	23件	25件	17件	25件	25件	25件	25件	25件	34件
NICUから他医療機関への転院（戻り搬送）患者数	-	88人	100人	78人	100人	93人	100人	52人	30人	58人
救急受入件数	-	5,112件	-	5,214件	-	4,898件	-	5,071件	-	4,869件
うち入院患者数	-	1,385人	-	1,394人	-	1,457人	-	1,416人	-	1,507人

ウ 精神医療センター 芹香病院・せりがや病院 平成26年12月に統合

< 芹香病院 >

精神科救急医療の取組（小項目 9）

新病院開院にあわせて精神科救急病床を60床から70床に増床した。

また、神奈川県精神保健福祉センター及び4区市（県、横浜市、川崎市、相模原市）により構築された精神科救急医療システムにおける基幹病院（休日・夜間・深夜の受入を行う病院）が確保する33床のうち精神医療センターは最多の16床を確保し、平成26年度の受入れ実績は平成25年度とほぼ同数の172件であった。そのうち、より重症な自傷他害の恐れが強い措置入院患者は、目標値の100件に対し124件となり、大幅に上回った。

[精神科救急件数の実績と目標値]

区 分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	目標値	実績								
措置入院患者	100件	109件	100件	108件	100件	138件	100件	137件	100件	124件
急激な精神症状の悪化が見られ入院が必要な患者	50件	43件	50件	46件	50件	46件	50件	37件	50件	48件

ストレスケア医療の取組（小項目10）

・反復性経頭蓋磁気刺激法 の開発については、平成26年度は7人（平成25年度以前との合計99人）の患者の協力を得て、気分障害への効果及び安全性について検証するため、実証実験を行うなど先進医療の認定に向けて研究を進めた。

反復性経頭蓋磁気刺激法（rTMS）

8の字型のコイルに電流を流すと周囲に磁界が発生し、その作用で脳の一定の部位に微弱な電流が生じる。それにより脳の神経細胞を刺激して機能を調整する。

- ・高度医療については、修正型電気けいれん療法について222件（平成25年度135件）実施したほか、クロザピン治療を新たに5人実施した（平成25年度からの合計15人）。
- ・うつ病、うつ状態による休職者や離職者の職場復帰を目的とした通所によるリワークプログラムについては、新病院開院に伴い、従来の精神科作業療法と通院集団精神療法によるプログラムを終了し、ショートケアによる実施に移行した。ショートケア移行に伴い、プログラムを改変し、利用者の希望が多かった時間延長（2時間から3時間）を行った。また、離職者、複数回の休職経験者、依存症関連の利用者の受入れにも積極的に取り組んだ。

[リワークプログラム実施延べ患者数の実績]

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度	
			目標値	実績	目標値	実績
1,559人	1,321人	1,245人	1,330人	874人	550人	1,202人

・2ヶ所の大学を訪問し、ストレスケア病棟の紹介を行うとともに、うつ病についての講演会やストレスケア病棟の見学会を3回実施した。

・うつ病予防のための県民向けの公開講座を次のとおり実施した。

期 日：平成27年3月7日

テーマ：うつ病診断補助の臨床マーカー最前線 - 目に見えるようになりつつあるところの病 - 、「ストレスケア病棟の取組み」

受講者：103人

・思春期を対象とした精神科医療の実施に向け、提供する医療内容や運営体制について検討を進め、新病院開院にあわせ思春期病棟を開棟し、診療を開始した。

医療観察法病棟の整備（小項目11）

・指定通院医療機関として、多職種チーム（医師、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士等）を3チーム編成して、関東信越厚生局の要請に応じ、584人の通院患者を受け入れ、患者の症状に対応した個別治療計画を策定し、手厚い医療を積極的に実施した。

・県内の指定医療機関や保護観察所、社会福祉施設等との連携を図り、医療観察法に基づく医療提供を円滑に実施するため、かながわ司法精神医療福祉ネットワーク会議（年4回）を開催した。

[医療観察法指定通院医療の延べ患者数の実績と目標値]

平成22年度 実績	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
1,126人	768人	1,315人	1,056人	1,054人	1,090人	837人	910人	584人

・指定入院医療機関として、関東信越厚生局の要請に応じて計画的に入院患者を受け入れた結果、専門病棟（33床）の病床利用率は年間を通じて90%以上となった。また、専門治療プログラムの提供や退院準備室等を利用した外出、外泊を実施し、地域関係機関との連携により、退院を進めた。

・医療観察法に基づく医療の質の向上及び均てん化を図るため精神医療センターの多職種チームの職員3名が指定医療機関を訪問するとともに、他の指定医療機関からも4名の職員を受け入れ、医療体制等に係る評価や課題への助言等の技術交流を行った。

<せりがや病院>

アルコール・薬物による依存症医療の取組等（小項目12）

・アルコールや覚醒剤等の薬物による依存症を対象として、ミーティング等を取り入れた治療プログラムや家族教室を実施したほか、依存症医療における地域医療機関等との連携・協力などを図り、新患患者の増加に努めた。

・国の「依存症治療拠点機関設置運営事業」に基づき、平成26年10月に神奈川県から依存症治療拠点機関としての指定を受け、専門的な治療・相談を実施するとともに、医師、自助団体等からなる対策協議会を2回、研修会を1回開催するなど依存症対策に取り組んだ。

アルコール家族教室 年間21回

薬物家族教室 年間24回

[新患患者数の実績と目標値]

平成23年度 実績	平成24年度 実績	平成25年度		平成26年度	
		目標値	実績	目標値	実績
507人	559人	510人	518人	520人	390人

・S M A R P Pについては、入院から退院後のフォローまでのグループ、外来薬物、外来女性の3グループが定着し、見学研修者を積極的に受け入れ、治療プログラムの普及にも努めた。また、アルコール版の治療プログラムSARPPを入院、外来において開始した。さらに依存物質に問わず「感情」に着目し、心理士、作業療法士、看護師からなる多職種チームで同じテーマを共有し、アプローチするSCOPプログラムを独自に開発し、入院患者に提供した。

S M A R P P（Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program）とは、海外で有効性が確認されている覚せい剤依存症に対する総合的外来治療プログラムを我が国の実情に沿った形で、せりがや病院で修正したものである。

[SMARPP実施患者数の実績と目標値]

平成22年度 実績	平成23年度 実績	平成24年度 実績	平成25年度		平成26年度	
			目標値	実績	目標値	実績
実患者数100人 (延700人)	実患者数97人 (延790人)	実患者数138人 (延1,110人)	実患者数100人 (延800人)	実患者数157人 (延1,265人)	実患者数100人 (延800人)	実患者数95人 (延913人)

・県と連携して、県内の中学校、高校等で開催される薬物乱用防止教室に職員を派遣し、啓発活動を行った（実績 延19施設5,132人）。社会的問題となっている「危険ハープ」関連の依頼も多く、実情について講演し、専門病院としての臨床研究を踏まえた啓発活動を行った。

エ がんセンター

手術実施体制の充実（小項目13-1）

手術室を最大8列の同時運用を行い、手術枠を増加し手術件数の増加を図った。その結果、目標件数3,300件に対し、実績は93.6%の3,089件となった。1日当たりの件数は、12.7件で昨年に比べて1.3件増加した。

[手術件数の実績と目標値]

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
目標値	実績								
2,700件	2,565件	2,700件	2,564件	2,700件	2,738件	2,610件	2,685件	3,300件	3,089件

外来化学療法の実績と目標値

- 平成26年度の外来化学療法件数は、15,067件と目標の13,700件を1,367件と10%増加することが出来た。
- 目標を大幅に上回ることが出来たが、機能を十分に活かすために新規患者の増加に向けた取り組みを進めていく。

[外来化学療法件数の実績と目標値]

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
目標値	実績								
12,580件	11,746件	11,600件	11,785件	11,700件	11,624件	12,570件	11,747件	13,700件	15,067件

外来薬剤指導の実績と目標値

- 平成26年度の外来薬剤指導件数は、日々の調剤業務や相談業務等を効率よく運用し、1,990件と、目標の1,920件を70件上回り、3.6%増加することが出来た。

[外来薬剤指導件数の実績と目標値]

平成23年度実績	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
1,586件	1,500件	1,782件	1,680件	1,885件	1,920件	1,990件

- これまで実施している漢方外来の機能充実を図る「漢方サポートセンター」の設置に向けた協議を進めた。

漢方サポートセンターの取組（小項目13-4）

平成26年4月1日に、漢方外来の機能充実を図る「漢方サポートセンター」を開設した。

(参考) 外来延患者数 2,108 人
 相談件数 143 件
 講演会 2 回開催

- 職員用食堂、患者用レストランにおいて、一部メニューの食材に薬膳的効能を表示した。
- 化学療法患者向けに栄養・料理教室を8回開催した。

放射線治療の推進（小項目14）

放射線治療装置（リニアック）4台体制により患者の身体的負担に配慮した精密な治療計画に基づき積極的かつ着実に進めた。

その結果、実患者数の目標値1,000人に対し1,080人と目標を達成した。

特に、高精度放射線治療（強度変調放射線治療（IMRT））では、目標値25人に対し94人と大幅に伸ばした。

[放射線治療の実患者数の実績と目標値]

平成25年度		平成26年度	
目標値	実績	目標値	実績
650人	753人	1,000人	1,080人

[照射方法別治療実患者数の実績と目標値]

照射方法	平成23年度実績	平成24年度		平成25年度	
		目標値	実績	目標値	実績
通常照射	408人	600人	769人	610人	745人
IMRT(強度変調)	2人	25人	15人	12人	26人
定位照射	2人	24人	13人	14人	15人
全身照射	21人	20人	20人	14人	30人

照射方法	平成26年度	
	目標値	実績
通常照射及び全身照射	960人	971人
IMRT(強度変調)	25人	94人
定位照射	15人	15人

1症例あたりの平均照射回数

通常照射	30回
IMRT(強度変調)	37回
定位照射	4回
全身照射	1回

緩和ケアの取組（小項目15）

- ・平成26年4月1日より緩和ケアセンターを設置し、緩和ケアの提供体制を整備した。
- ・がんと診断されたときから症状の段階に応じたケアの実施や、20床に拡充した緩和ケア病棟における療養環境の充実に努めた。

緩和ケア病棟 20床

入院延患者数 6,828人

緩和ケア外来患者数 705人

- ・平成27年1月31日、2月1日の2日間、がん診療に携わる医師、医療従事者を対象として、がん性疼痛緩和や身体症状に対する緩和ケア、精神症状に関する緩和ケアを内容とした緩和ケア研修会を開催し、77名の参加があった。

都道府県がん診療連携拠点病院の取組（小項目16）

- ・がん臨床講座は、目標である30回450名に対し、31回開催し631名の参加者があった。
- ・緩和ケア研修会は、目標の50名に対し、77名の参加があった。
- ・がん診療に携わる研修医を採用するとともに、専門医の取得を推進するなど、専門医の育成による診療機能強化の充実に努めた。

専門医取得 7人

がん専門臨床研修医採用 5人

[がん専門研修の実績と目標値]

区分	平成22年度目標値		平成22年度実績	
	回数	参加人数	回数	参加人数
がん臨床講座	30回	600人	33回	648人
緩和ケア研修	2回	50人	2回	55人
区分	平成23年度目標値		平成23年度実績	
	回数	参加人数	回数	参加人数
がん臨床講座	30回	600人	31回	626人
緩和ケア研修	2回	50人	2回	67人
区分	平成24年度目標値		平成24年度実績	
	回数	参加人数	回数	参加人数
がん臨床講座	30回	600人	31回	560人
緩和ケア研修	2回	50人	2回	42人
区分	平成25年度目標値		平成25年度実績	
	回数	参加人数	回数	参加人数
がん臨床講座	30回	600人	31回	436人
緩和ケア研修	2回	50人	2回	40人
区分	平成26年度目標値		平成26年度実績	
	回数	参加人数	回数	参加人数
がん臨床講座	30回	450人	31回	631人
緩和ケア研修	2回	50人	2回	77人

(注) 緩和ケア研修は2回で1コース

・日本病院会のQ Iプロジェクト及びC Q I研究会に参加し、診療指標の測定・公表及び分析を行うなど、医療の質の向上や均てん化を進めた。

オ 循環器呼吸器病センター

循環器疾患治療体制の充実(小項目17)

・狭心症や急性心筋梗塞について、緊急症例に対しては迅速に対応し安定した診療を行った。また、早期社会復帰と再発予防のための心臓リハビリテーションを積極的に取り入れるなど、慢性期の診療にも力を注いだ。

・不整脈診療については、平成26年5月に心房細動センターを設置し多職種チームによる「待ち時間ゼロ」の診療体制を構築するとともに、11月にはカテーテルアブレーション専門外来を開設し、適応患者の受け入れ拡大を図った。

・平成26年4月より糖尿病専門外来チームを立ち上げ、外来看護師(糖尿病療養指導士)による個別相談や患者向けの教育プログラムの作成など、多職種で糖尿病コントロールや療養指導に取組み、糖尿病診療の充実を図った。

[P C I 症例数の実績と目標値]

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
目標値	実績								
355件	279件	300件	265件	260件	281件	260件	262件	260件	240件

[カテーテルアブレーション症例数の実績と目標値]

平成22年度実績	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
65件	80件	87件	100件	93件	50件	52件	80件	51件

[糖尿病外来延べ患者数の実績と目標値]

平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度	
		目標値	実績
1,097件	1,700件	1,500件	2,095件

肺がん治療の強化（小項目18）

- ・呼吸器内科・外科はもとより放射線科、病理検査、薬剤、看護等が緊密に連携して、的確な診断と効果的な集学的治療を実施するとともに呼吸リハビリテーションや患者相談までの包括的医療を提供した。
- ・また、これらの取組みを記したチラシを毎月発行し、患者に周知することにより、肺がん治療の効果を高めた。

[肺がん手術件数の実績と目標値]

区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度		平成26年度	
			目標値	実績	目標値	実績
肺がん手術件数	113件	129件	120件	136件	120件	121件
うち胸腔鏡下手術件数	100件	122件	105件	127件	110件	119件

[化学療法件数の実績と目標値]

区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度		平成26年度	
			目標値	実績	目標値	実績
入院治療	695件	619件	650件	597件	650件	606件
外来治療	494件	491件	550件	683件	600件	509件

[放射線治療件数の実績と目標値]

平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
130件	51件	80件	77件	180件	147件	180件	144件

治療計画作成件数

間質性肺炎の診療体制の充実（小項目19）

- ・胸腔鏡下肺生検による診断、最新の抗線維化薬による治療、包括的呼吸リハビリテーションの導入など質の高い診療を実施し、全国から患者を受け入れた。
- ・間質性肺炎診療の中核的な役割を担う医療機関として、全国規模の症例検討会を定期的開催し、診療レベルの向上に努めるとともに、患者の増加に対応するため、平成27年度の間質性肺炎センターの設置や専門外来の拡大に向けた準備を進めた。

[間質性肺炎の新規の外来患者数の実績と目標値]

平成22年度実績	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
192人	130人	176人	180人	218人	220人	259人	240人	272人

結核医療の取組（小項目20）

- ・入院患者に対して院内DOTSの徹底を図るとともに、退院患者に対しては患者の状態に合わせたDOTS支援を行うことにより、結核の再発と多剤耐性結核の発生防止に努めた。
- ・外科的処置を行う患者や精神疾患のある患者が増えていることから、平成26年10月に入院基本料10対1看護基準を取得し、より手厚い看護配置を行うなど結核入院患者の療養環境の改善を図った。
- ・結核菌排菌患者の手術時における空気感染対策を強化するため、ポータブル陰圧装置を導入し、結核専門医療機関としての体制整備に努めた。

(参考) [結核病棟延入院患者数の推移] (下段は1日当たり)

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
14,136人 (38.7人)	13,478人 (36.8人)	12,715人 (34.8人)	12,870人 (35.3人)	11,380人 (31.2人)

(参考) [多剤耐性結核患者の推移]

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
2人	2人	0人	1人	1人

カ 医療機能を評価する指標の設定 (小項目21)

- 1 患者満足度把握 (患者満足度調査)
- 2 地域連携室等の相談件数
- 3 クリティカルパスの設定数
- 4 退院サマリーの2週間以内完成率
- 5 ヒヤリ・ハット事例及び医療事故の発生・報告状況
- 6 褥瘡患者発生率
- 7 新卒看護師離職率
- 8 専門・認定看護師数

【病院機構の共通指標 8指標】

- 1 患者満足度の把握 (患者満足度調査)

[満足度調査結果]

平成22年度	入院		外来	
	回答総数	満足度	回答総数	満足度
足柄上病院	125人	95.6%	450人	51.0%
こども医療センター	216人	79.0%	1,180人	53.3%
芹香病院	136人	65.5%	272人	62.0%
せりがや病院	44人	66.5%	-	-
がんセンター	285人	91.5%	787人	83.1%
循環器呼吸器病センター	136人	88.2%	215人	85.6%

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

平成23年度	入院			外来		
	満足評価	回答総数	満足度	満足評価	回答総数	満足度
足柄上病院	95人	99人	96.0%	171人	221人	77.4%
こども医療センター	129人	160人	80.6%	1,012人	1,298人	78.0%
芹香病院	79人	125人	63.2%	156人	301人	51.8%
せりがや病院	31人	43人	72.1%	131人	165人	79.4%
がんセンター	261人	295人	88.5%	630人	765人	82.4%
循環器呼吸器病センター	183人	210人	87.1%	365人	412人	88.6%

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

平成24年度	入院				外来			
	満足評価	回答総数	満足度	配布数	満足評価	回答総数	満足度	配布数
足柄上病院	93人	98人	94.9%	200	217人	258人	84.1%	390
こども医療センター	135人	158人	85.4%	313	723人	972人	74.4%	2,000
芹香病院	69人	111人	62.2%	127	171人	345人	49.6%	345
せりがや病院	33人	43人	76.7%	52	98人	105人	93.3%	112
がんセンター	284人	311人	91.3%	378	574人	704人	81.5%	843
循環器呼吸器病センター	163人	185人	88.1%	400	342人	397人	86.1%	600

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

平成25年度	入院				外来			
	満足評価	回答総数	満足度	配布数	満足評価	回答総数	満足度	配布数
足柄上病院	73人	78人	93.6%	200	187人	226人	82.7%	400
こども医療センター	178人	193人	92.2%	352	723人	913人	79.2%	1,717
芹香病院	82人	121人	67.8%	158	138人	280人	49.3%	280
せりがや病院	30人	35人	85.7%	39	123人	139人	88.5%	159
がんセンター	313人	332人	94.3%	344	720人	789人	91.3%	876
循環器呼吸器病センター	161人	178人	90.4%	300	362人	405人	89.4%	600

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

平成26年度	入院				外来			
	満足評価	回答総数	満足度	配布数	満足評価	回答総数	満足度	配布数
足柄上病院	69人	75人	92.0%	200	205人	243人	84.4%	400
こども医療センター	129人	132人	97.7%	328	840人	863人	97.3%	1,936
精神医療センター	110人	163人	67.5%	209	157人	250人	62.8%	276
がんセンター	324人	348人	93.1%	670	798人	887人	90.0%	1,000
循環器呼吸器病センター	188人	205人	91.7%	400	271人	315人	86.0%	600

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

2 地域連携室等の相談件数

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
足柄上病院	11,473件	11,264件	11,439件	10,793件	13,366件
こども医療センター	24,130件	21,933件	27,137件	15,751件	16,768件
精神医療センター	4,863件	5,070件	5,315件	4,661件	4,586件
（芹香病院）	4,593件	4,679件	4,817件	4,208件	4,173件
（せりがや病院）	270件	391件	498件	453件	413件
がんセンター	9,825件	9,354件	8,352件	7,927件	8,787件
循環器呼吸器病センター	8,284件	11,416件	14,497件	13,786件	11,513件
計	58,575件	59,037件	66,740件	52,918件	55,020件

3 クリティカルパスの設定数

病院名	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
					新規	改定（見直し）	廃止	件数
足柄上病院	66件	70件	71件	73件	3件	2件	0件	76件
こども医療センター	28件	29件	89件	88件	0件	27件	1件	87件
精神医療センター	5件	6件	7件	9件	0件	1件	0件	9件
（芹香病院）	3件	3件	3件	4件	0件	1件	0件	4件
（せりがや病院）	2件	3件	4件	5件	0件	0件	0件	5件
がんセンター	50件	32件	37件	47件	14件	16件	0件	61件
循環器呼吸器病センター	18件	20件	21件	21件	1件	3件	0件	22件
計	167件	157件	225件	238件	18件	49件	1件	255件

4 退院サマリーの2週間以内完成率

区分	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	分子 担当医が退院後 2週間以内にサ マリーを完成し た数	分母 退院患者数	測定値 2週間以内完 成率									
足柄上病院	5,100件	6,046人	84.4%	5,178件	6,211人	83.4%	5,197件	6,244人	83.2%	5,027件	6,254人	80.4%
こども医療センター	5,783件	6,879人	84.1%	5,323件	7,297人	72.9%	5,671件	7,316人	77.5%	6,884件	7,600人	90.6%
精神医療センター	865件	947件	91.3%	919件	993件	92.5%	735件	897件	81.9%	763件	875件	87.2%
（芹香病院）	604件	607人	99.5%	609件	612人	99.5%	572件	577人	99.1%	627件	671人	93.4%
（せりがや病院）	261件	340人	76.8%	310件	381人	81.4%	163件	320人	50.9%	136件	204人	66.7%
がんセンター	7,126件	7,647人	93.2%	7,297件	8,449人	86.4%	7,671件	8,693人	88.2%	8,665件	9,865人	87.8%
循環器呼吸器病センター	3,945件	4,226人	93.4%	3,984件	4,334人	91.9%	3,941件	4,346人	90.7%	3,762件	4,295人	87.6%

5 ヒヤリ・ハット事例及び医療事故の発生・報告状況

[ヒヤリ・ハット事例、医療事故の報告・報告件数実績]

平成23年度	ヒヤリ・ハット事例					医療事故				合計
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	小計	レベル3b	レベル4	レベル5	小計	
足柄上病院	276件	1,158件	311件	25件	1,770件	4件	0件	0件	4件	1,774件
こども医療センター	295件	1,898件	88件	25件	2,306件	7件	0件	0件	7件	2,313件
芹香病院	53件	261件	65件	17件	396件	4件	0件	0件	4件	400件
せりがや病院	35件	107件	19件	3件	164件	0件	0件	0件	0件	164件
がんセンター	292件	1,369件	79件	14件	1,754件	4件	0件	0件	4件	1,758件
循環器呼吸器病センター	199件	818件	248件	16件	1,281件	3件	0件	0件	3件	1,284件
計	1,150件	5,611件	810件	100件	7,671件	22件	0件	0件	22件	7,693件

平成24年度	ヒヤリ・ハット事例					医療事故				合計
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	小計	レベル3b	レベル4	レベル5	小計	
足柄上病院	315件	1,312件	214件	37件	1,878件	2件	0件	0件	2件	1,880件
こども医療センター	278件	1,690件	123件	60件	2,151件	3件	0件	0件	3件	2,154件
芹香病院	97件	429件	61件	13件	600件	2件	0件	0件	2件	602件
せりがや病院	29件	102件	19件	2件	152件	0件	0件	0件	0件	152件
がんセンター	272件	1,546件	86件	17件	1,921件	2件	0件	0件	2件	1,923件
循環器呼吸器病センター	137件	820件	257件	30件	1,244件	3件	0件	0件	3件	1,247件
計	1,128件	5,899件	760件	159件	7,946件	12件	0件	0件	12件	7,958件

平成25年度	ヒヤリ・ハット事例					医療事故				合計
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	小計	レベル3b	レベル4	レベル5	小計	
足柄上病院	180件	1,077件	228件	48件	1,533件	6件	0件	0件	6件	1,539件
こども医療センター	333件	1,988件	107件	56件	2,484件	3件	0件	0件	3件	2,487件
芹香病院	84件	361件	72件	14件	531件	1件	0件	0件	1件	532件
せりがや病院	40件	125件	25件	2件	192件	0件	0件	0件	0件	192件
がんセンター	333件	1,700件	103件	28件	2,164件	4件	0件	0件	4件	2,168件
循環器呼吸器病センター	303件	814件	198件	9件	1,324件	0件	0件	0件	0件	1,324件
計	1,273件	6,065件	733件	157件	8,228件	14件	0件	0件	14件	8,242件

平成26年度	ヒヤリ・ハット事例					医療事故				合計
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	小計	レベル3b	レベル4	レベル5	小計	
足柄上病院	242件	1,132件	216件	16件	1,606件	2件	0件	0件	2件	1,608件
こども医療センター	295件	1,533件	166件	42件	2,036件	4件	0件	0件	4件	2,040件
精神医療センター	153件	482件	121件	10件	766件	0件	0件	0件	0件	766件
がんセンター	393件	2,085件	161件	8件	2,647件	3件	0件	0件	3件	2,650件
循環器呼吸器病センター	320件	891件	203件	19件	1,433件	1件	0件	0件	1件	1,434件
計	1,403件	6,123件	867件	95件	8,488件	10件	0件	0件	10件	8,498件

6 褥瘡患者発生率

区分	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	分子	分母	測定値									
	新規褥瘡発生患者数(新規褥瘡発生件数)	入院患者数(延べ入院患者数)	褥瘡発生率									
足柄上病院	76件	5,960人	1.28%	61件	6,384人	0.96%	83件	6,396人	1.30%	70件	6,418人	1.09%
こども医療センター	102件	127,883人	0.08%	122件	126,949人	0.10%	163件	129,030人	0.13%	204件	127,991人	0.16%
精神医療センター (芹香病院)	6件	2,974人	0.20%	8件	2,887人	0.28%	8件	3,127人	0.26%	4件	4,119人	0.10%
(せりがや病院)	1件	359人	0.28%	0件	426人	0.00%	0件	349人	0.00%	0件	408人	0.00%
がんセンター	78件	10,833人	0.72%	114件	11,905人	0.96%	93件	12,017人	0.77%	124件	13,394人	0.93%
循環器呼吸器病センター	29件	4,238人	0.68%	37件	4,322人	0.86%	30件	4,396人	0.68%	52件	4,330人	1.20%

こども医療センターのみ、分子は新規褥瘡発生件数、分母は延べ入院患者数

7 新卒看護師離職率

区 分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
病院機構の新卒看護師採用人数	93人	122人	127人	112人	109人
病院機構の新卒看護師退職人数	8人	14人	7人	6人	12人
病院機構の新卒看護師離職率	8.6%	11.5%	5.5%	5.4%	11.0%
神奈川県の新卒看護師平均離職率	8.8%	8.8%	8.8%	8.1%	-
全国の新卒看護師平均離職率	8.1%	7.5%	7.9%	7.5%	-

8 専門・認定看護師数

区 分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
専門看護師	10人	15人	21人	23人	22人
小児看護	4人	5人	6人	6人	6人
がん看護	6人	7人	11人	12人	12人
家族看護	0人	2人	2人	2人	2人
慢性疾患看護	0人	1人	1人	1人	0人
精神看護	0人	0人	1人	2人	2人
認定看護管理者	4人	3人	5人	3人	8人
認定看護師	53人	51人	52人	56人	61人
皮膚・排泄ケア	5人	6人	6人	6人	6人
集中ケア	8人	8人	8人	8人	8人
がん性疼痛看護	17人	16人	15人	16人	16人
がん化学療法	3人	3人	4人	4人	4人
乳がん看護	1人	1人	1人	1人	2人
緩和ケア	7人	6人	4人	4人	6人
感染管理	7人	7人	7人	8人	8人
糖尿病看護	1人	0人	2人	2人	2人
小児救急看護	2人	2人	2人	2人	2人
新生児集中ケア	2人	2人	2人	2人	2人
救急看護	0人	0人	1人	1人	1人
放射線療法看護	0人	0人	0人	0人	1人
手術看護	0人	0人	0人	0人	1人
摂食・嚥下障害看護	0人	0人	0人	1人	1人
慢性心不全看護	0人	0人	0人	1人	1人
精神科認定看護師	5人	5人	5人	9人	7人
計	72人	74人	83人	91人	98人

9 糖尿病患者の血糖コントロールHbA1c < 6.9

[足柄上病院]

実績値 58.3% (目標値 45)

(分子) HbA1c < 6.9の患者数 609人

(分母) インスリン又は経口血糖降下薬を処方されている患者数 1,044人

10 退院患者の在宅復帰率

[足柄上病院]

実績値 86.5% (目標値 75%)

(分子) 自宅退院した患者数 4,898人

(分母) 退院患者数(死亡退院を除く) 5,660人

- 11 地域がん登録の登録率
[足柄上病院]
実績値 96.8% (目標値 95%)
(分子) 地域がん登録をしたがん患者数 424人
(分母) 全がん治療患者数 438人
- 12 1歳未満乳児外科施設基準対象手術件数
[こども医療センター]
実績値 64件 (目標値 60件)
- 13 ハイリスク妊娠取扱率
[こども医療センター]
実績値 209件 (目標値 170件)
- 14 患者・家族の意見を反映させた看護計画実施率
[こども医療センター]
実績値 95.4% (目標値 85%)
(分子) 患者・家族の意見を反映させた看護計画の実施患者数 4,055人
(分母) クリティカルパス適用及び一日入院患者を除いた入院実患者数 4,252人
- 15 在宅療養指導実施件数
[こども医療センター]
実績値 678件 (目標値 650件)
- 16 医療観察法の通院医療延患者数
[精神医療センター 芹香病院]
実績値 584人 (目標値 910人)
- 17 全県における救急病棟の措置入院の受入率
[精神医療センター 芹香病院]
実績値 17.4% (目標値 16%)
(分子) 1年間の措置入院延件数 124件
(分母) 1年間の全県の延措置入院件数 712件
- 18 外来患者への訪問看護延件数
[精神医療センター 芹香病院]
実績値 2,332件 (目標値 2,500件)
- 19 初診患者の紹介率
[精神医療センター せりがや病院]
実績値 33.5% (目標値 40%)
(分子) 1年間の紹介患者延数 140人
(分母) 1年間の初診患者延数 418人

- 20 主たる手術の包括算定の対象入院期間 以内の割合
 [がんセンター]
 の悪性腫瘍
 実施値 96.8% (目標値 90%以上)
 (分子) 包括算定の対象入院期間 (13日)以内の手術数 332件
 (分母) 手術数 343件
 の悪性腫瘍
 実施値 97.2% (目標値 90%以上)
 (分子) 包括算定の対象入院期間 (20日)以内の手術数 173件
 (分母) 手術数 178件
 房の悪性腫瘍
 実施値 76.9% (目標値 70%以上)
 (分子) 包括算定の対象入院期間 (8日)以内の手術数 203件
 (分母) 手術数 264件
- 21 歯科口腔ケアの取組件数
 [がんセンター]
 実績値 693例 (目標値 200例)
- 22 英文原著論文数及びそのインパクトファクター
 [がんセンター]
 実績値 インパクトファクターの総和 217.6 (目標値50)
 英文論文数 66
- 23 専門看護外来患者数
 [がんセンター]
 実績値 2,521人 (目標値 2,000人)
- 24 急性心筋梗塞患者における病院到着からP C Iによる再開通までの時間
 [循環器呼吸器病センター]
 実績値 90.0% (目標値 80%以上)
 (分子) 来院から初回冠動脈拡張術までの時間が90分以内の患者数 27人
 (分母) 緊急冠動脈形成術施行患者数 30人
- 25 心臓MRI検査件数
 [循環器呼吸器病センター]
 実績値 412件 (目標値 450件)
- 26 リハビリテーション実施件数
 [循環器呼吸器病センター]
 実績値 心臓リハビリテーション 2,724件 (目標値 2,500件)
 呼吸器リハビリテーション 5,287件 (目標値 3,500件)

(2) 医療機器・施設整備の推進

ア 医療機器整備の推進（小項目22）

【高額医療機器】

[足柄上病院]

磁気共鳴断層撮影装置

[こども医療センター]

コンピューター断層撮影装置(X線CTスキャナー)

自動細胞分離解析装置(セルソーター)

[精神医療センター]

コンピューター断層撮影装置(X線CTスキャナー)

[がんセンター]

自動細胞分離解析装置(セルソーター)

[循環器呼吸器病センター]

X線血管撮影装置(バイプレーン)

【通常医療機器】

[足柄上病院]

セントラルモニター 等

[こども医療センター]

MRI対応生体情報モニター 等

[精神医療センター]

近赤外光イメージング装置 等

[がんセンター]

内視鏡下手術用ビデオシステム 等

[循環器呼吸器病センター]

生化学・免疫自動分析装置 等

イ 施設整備の推進

(ア) がんセンター総合整備の推進

がんセンター総合整備の推進（小項目23）

・重粒子線治療施設については、平成27年12月の治療開始に向けて、平成26年10月に建屋の引き渡しを受け、業務フローの作成や業者との調整を計画的に進めた。スタッフについては、先行して治療を行っている施設に医師、技師を派遣し、人材育成を推進した。

・装置については、加速器等の納入が終わり、スキャンニング照射までの試験を完了した。

・重粒子線治療の開始に向けて、先行して治療を行っている施設に医師、技師を派遣し人材育成に努めた。

派遣先：放射線医学総合研究所

職 種：医師 1名（H25年度 1名）

放射線技師 2名（H25年度 1名）

・重粒子線治療に関する県民向け広報として、平成27年2月に講演会を開催した。

日 時 平成27年2月22日（土）

場 所 はまぎんホール

参加人員 465人

【重粒子線治療施設概要】

建築面積	3009.12m ²
延床面積	6999.47m ²
階数	地上2階、地下1階建
構造	鉄筋コンクリート造
治療室数	4治療室、6治療ホ-ト

(1) 精神医療センター総合整備の推進

精神医療センター総合整備の推進（小項目24）

- ・精神医療センター総合整備計画に基づき、施設の老朽化や新たな精神科医療への対応、さらには芹香病院とせりがや病院の統合による効率的な病院運営を図るため、建築工事を着実に進め、平成26年12月に新病院を開院した。
- ・芹香病院とせりがや病院の統合など新病院の円滑な運営体制について、院内に設置した総合運営検討会議等で検討を進めたほか、医療の充実強化に必要な医療機器や良好な環境の確保に必要な備品等を重点的に整備した。
- ・新病院への移転にあたっては、詳細な検討やリハーサルなどを行い、患者を安全に移送した。
- ・両病院の統合を円滑に行い、順調に運営を始めることができた。

【新病院（本館）の概要】

病床数	8病棟290床
建築面積	5,570.52m ²
延床面積	18,462.53m ²
建物構造	鉄筋コンクリート造 5階建 免震構造、太陽光発電設備を設置

(3) 地域医療連携の強化

地域医療連携の強化（小項目25）

- ・各病院が有する特性や機能を踏まえ、紹介・逆紹介の拡大に努め、地域医療連携に関する各種講座や会議の開催など、地域医療機関との連携の強化を図った。
- ・神奈川県立病院地域医療連携連絡会議を4回開催し、各病院の地域医療連携に関する情報を共有するとともに、県民への啓発活動として、地域医療連携に関する案内をホームページに掲載した。

(参考) [紹介件数の及び紹介率の実績]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	紹介件数	紹介率								
足柄上病院	7,114件	38.1%	7,115件	37.4%	7,460件	38.4%	7,943件	42.4%	8,277件	45.1%
こども医療センター	7,084件	95.4%	7,221件	95.7%	7,494件	96.7%	7,662件	97.3%	7,470件	98.5%
精神医療センター	595件	-	539件	-	607件	-	545件	-	542件	44.8%
(芹香病院)	335件	47.1%	297件	52.4%	322件	53.8%	289件	50.6%	402件	49.8%
(せりがや病院)	260件	35.4%	242件	34.9%	285件	38.3%	256件	35.7%	140件	33.5%
がんセンター	5,195件	99.0%	5,079件	99.2%	5,478件	99.8%	5,964件	99.2%	6,461件	99.2%
循環器呼吸器病センター	4,550件	71.7%	4,200件	69.2%	4,052件	70.1%	4,319件	69.1%	4,328件	71.7%
計	24,538件	-	24,154件	-	25,091件	-	26,433件	-	27,078件	-

(参考) [逆紹介件数の及び逆紹介率の実績]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	逆紹介件数	逆紹介率								
足柄上病院	2,768件	16.1%	2,889件	16.3%	3,424件	19.1%	4,304件	25.1%	4,497件	26.7%
こども医療センター	4,061件	54.7%	4,325件	57.3%	4,880件	62.9%	5,166件	65.6%	5,622件	72.3%
精神医療センター	563件	-	701件	-	595件	-	525件	-	521件	42.5%
(芹香病院)	352件	49.5%	481件	84.8%	351件	58.7%	255件	44.7%	336件	41.6%
(せりがや病院)	211件	28.7%	220件	31.7%	244件	32.8%	270件	37.6%	185件	44.3%
がんセンター	1,746件	33.3%	1,518件	29.7%	1,508件	27.5%	2,358件	39.2%	3,680件	56.5%
循環器呼吸器病センター	3,279件	51.7%	3,730件	61.4%	4,244件	73.4%	3,982件	63.7%	4,232件	70.1%
計	12,417件	-	13,163件	-	14,651件	-	16,335件	-	18,552件	-

精神医療センターは平成26年12月1日に統合したため、平成26年度の実績について、芹香病院の件数は、4月から11月までの芹香病院と12月以降の精神医療センターの実績を計上し、せりがや病院の件数は4月から11月までのせりがや病院の実績を計上している。(以降についても同様)

[足柄上病院]

- ・リハビリテーション等の回復期治療を担う地域医療機関との連携強化に努めるとともに、平成26年度は鶴巻温泉病院など3医療機関と「脳卒中地域連携パス」29件を運用した。
- ・足柄上医師会との臨床研究会の開催や照会元機関への状況報告を行うとともに、地域医療機関等に訪問し、在宅療養支援の連携を図るなど、紹介率・逆紹介率の向上に努めた。

[足柄上病院の紹介率・逆紹介率の実績と目標値]

区分	平成25年度		平成26年度	
	目標値	実績	目標値	実績
紹介率	45%	42.4%	45%	45.1%
逆紹介率	20%	25.1%	25%	26.7%

- ・高度医療機器の共同利用

CT 218件 MRI 55件 計273件

[こども医療センター]

- ・県との契約に基づき、専任の職員を配置した小児在宅医療相談窓口を設置したほか、小児在宅に関する医療ケアマニュアルや療養支援ガイドブックを作成するなどの取組を行った。
- ・退院・在宅医療支援室の看護師をはじめ多職種が連携し、新生児及び15歳以上の患者を対象とした570件の退院支援カンファレンスを行い、在宅医療の推進を図った。
- ・紹介元機関のうち、診療所との連携を強化するため、扱うことの多いアレルギー疾患等に関する勉強会を3回開催し、延100人が参加したほか、新たに診療所の訪問による意見交換を行った結果、登録医療機関数は前年度に比べ188医療機関増の574医療機関となった。
- ・在宅医療を推進するため、新たに訪問診療を担う地域医療機関の医師とのカンファレンスを開催し、小児在宅医療に関する課題について意見交換を行った。

[こども医療センターの退院後訪問看護件数の実績と目標値]

平成25年度		平成26年度	
目標値	実績	目標値	実績
20件	12件	20件	14件

・退院後の初回訪問時に看護師が同行する訪問看護14件のうち3件は訪問診療医との引継ぎを行ったほか、医療ケア実技研修会を6回、小児の在宅医療を支える看護師交流会を1回開催し、在宅医療を担う地域医療機関への医療支援を行った。その結果、在宅患者受入訪問看護ステーションは前年度に比べ、42機関増の189機関となった。

[精神医療センター]

- ・精神科救急システムの構成団体（県、横浜市、川崎市、相模原市）と連携、協議を行い、精神科救急の受入を推進した。
- ・近隣大学の訪問やストレスケア研究会の開催など、地域と連携したストレスケア医療を推進した。
- ・医療観察法医療の普及に向けた横浜地方裁判所裁判官に対する病棟紹介や、神奈川司法精神科医療福祉ネットワーク会議（年4回）の主催など、医療機関等との連携強化を図った。
- ・精神障害者の地域移行や地域生活支援のため、保健所やサービス事業所が参加したケア会議に参加し、地域の医療福祉の質の向上に努めた。
- ・薬物乱用防止教室や、平成28年度の「刑の一部執行猶予制度」の実施に向けた連絡会の開催などにより、関係機関との連携を強化した。

[がんセンター]

- ・がん地域連携クリニカルパスについて、平成26年度は悪性リンパ腫59件、胃がん1件の60件を運用した。
- ・がん患者の医療連携を推進する取組として設置した「連携病床」について、地域ニーズを考慮した運用を行うなど、医療連携機能を推進した。
- ・電子カルテシステムを利用した地域連携システムを活用し、地域の医療機関との情報共有の深化を図った。
- ・歯科医療連携による口腔ケアを推進し、がん治療の副作用・合併症の予防・軽減、がん患者の生活の質の向上を図った。

[循環器呼吸器病センター]

- ・地域の医療機関のニーズに応え、X線CTにかかるオンライン検査予約枠の拡大を図り、高度医療機器の共同利用推進に努めた。
- ・地域の行政、医療機関、医療関係団体などが委員となる地域医療支援事業運営委員会を年2回開催し、患者動向や診療体制についての情報提供や意見交換を行った。

(4) 臨床研究の推進

ア 臨床研究

臨床研究の推進（小項目26）

- ・県民に提供できる医療水準の向上を目指し、国際的に通用する臨床試験を遂行するため、臨床研究基盤及び推進体制の整備に向けた検討を行った。

・各病院が特性及び機能を生かし、診断技法・治療法の開発及び臨床応用のための研究に取り組んだ。

[こども医療センター]

・ "Transient vascularization of transplanted human adult-derived progenitors promotes self-organizing cartilage(一時的な血管化を再現する独自のヒト軟骨培養法)"を "The Journal of Clinical Investigation"(IF13.8)に発表するなど学会誌発表や学会発表を行った。

・ 研究員の勤務発明(生体試料中のアミンの測定方法およびその方法を用いる患者のスクリーニング方法)が特許原簿に登録された。また、別の勤務発明についても、国際出願中であり、民間企業との実施許諾契約等の技術移転が成約した。

・ 横浜市立大学や慶應義塾大学との協定に基づき、医師の派遣を行うなど、連携した取組を推進した。

[精神医療センター]

・ ニューロモデュレーション研究や依存症研究、東洋医学研究等の臨床研究の充実に努めたほか、反復性経頭蓋磁気刺激法 (r T M S) に関する総説の執筆や学会発表を行った。

[がんセンター]

・ 臨床研究所研究員と臨床各科の医師あるいは外部機関の研究員等とがんの早期発見、治療等についての共同研究を行った。その研究成果については、業績集の発行や成果報告会において報告を行うとともに、英文原著論文発表や学会発表を行った。

・ 平成26年9月よりワクチンセンターにおいて臨床試験を開始した。

・ 神奈川県のがん登録事業を推進し、登録件数の実績は71,919件となった。

・ 腫瘍組織収集 (凍結組織) の実績は767件と目標の600件を上回った。

(参考) [神奈川県がん登録事業の登録件数実績]

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
70,893件	70,161件	78,665件	71,919件

[臨床研究に関する実績と目標値]

区分	平成24年度実績	平成25年度目標値	平成25年度実績	平成26年度目標値	平成26年度実績
英文論文数	39編	20編	34編	25編	66編
論文インパクトファクターの総和	76	40	73.5	50	217.6
文部科学省・厚生労働省科学研究費取得件数	9件	研究員の80%以上	研究員の76.9%	6件	13件

[神奈川がん臨床研究・情報機構における腫瘍組織 (凍結組織) 収集の実績と目標値]

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
目標値	実績								
600件	506件	540件	648件	540件	650件	540件	613件	600件	767件

イ 治験

治験の推進 (小項目27)

・ 各病院において、医薬品等の新規承認や適用拡大に向け、希少疾病用の治験や国際共同治験、また医師主導治験など、他の医療機関では実施が困難な治験に取り組んだ。

[こども医療センター・がんセンター・循環器呼吸器病センター]

・横浜市立大学が中心となり、治験や臨床研究の推進に取り組む「横浜臨床研究ネットワーク」に参画した。

[足柄上病院]

・抗がん剤や肺高血圧症治療薬などの医薬品について治験や受託研究に取り組んだ。

[こども医療センター]

・治験受託件数30件のうち、希少疾病用医薬品の治験受託件数は4件、うち小児の抗がん剤の治験受託件数が1件、国際共同治験が6件であった。また、国内未承認の医薬品2件と医療機器1件に係る医師主導治験を実施した。治験契約症例数は、前年度比31件増の91件であった。

・国内34の登録施設による小児治験ネットワークを通じた治験契約を10件受託し、他の医療機関と連携した小児医療の治験に積極的に取り組み、治験の質の向上及び効率化を図るなど、小児医薬品の早期開発を推進した。

[精神医療センター]

・統合失調症患者及びうつ患者を対象とした投与試験を実施した。

[がんセンター]

・治験の領域別では、肝細胞がん17件、乳がん14件、膵がん10件、胃がん8件、肺がん5件、大腸がん4件など計77件を実施し、登録症例数累計では延427件となった。

また、そのうち3つの治験（18件）は、平成26年度に設置したワクチンセンターにおいて実施した。

さらに、国内未承認の医薬品6件に係る医師主導治験も実施した。

・ホームページに実施中の治験一覧を掲載し、治験を要望する患者及び治験依頼者への医療機関選定に関する情報提供を行った。

・治験管理システムを活用した治験情報の共有化や進捗管理、多施設において開催していた会議を、電話会議やネット会議に切り替え、業務の効率化を推進するなど、安全な治験の実施や治験受託件数の拡大を図った。

[循環器呼吸器病センター]

・米国シカゴで開催された米国臨床腫瘍学会において、抗がん剤の治験について口演発表を行うなど情報発信に取組み、治験実施医療機関としての認知度を高めた。

・新規抗がん剤（抗体薬）の治験に積極的に取り組んだ。また、治験実施体制を強化し、マイルストーン方式の採用をはじめ迅速かつ効率的な事務に努め、治験の受託拡大を図った。

（参考）[治験実施状況]

区分	治験受託件数					受託研究件数				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
足柄上病院	12件	12件	12件	11件	11件	44件	42件	40件	38件	23件
こども医療センター	15件	17件	22件	24件	30件	64件	63件	62件	53件	57件
精神医療センター（芦香病院）	9件	8件	8件	7件	6件	0件	0件	0件	0件	0件
がんセンター	37件	43件	47件	59件	77件	46件	50件	58件	55件	65件
循環器呼吸器病センター	28件	30件	29件	42件	57件	46件	40件	39件	39件	39件
計	101件	110件	118件	143件	181件	200件	195件	199件	185件	184件

2 安全で安心な医療の提供

(1) 安全で安心な医療を支える医療体制の整備

安全で安心な医療を支える医療体制の整備（小項目28）

・各病院において、NSTや褥瘡対策チームなど、多職種で構成するチーム活動により、患者支援や質の高い医療の提供を行った。

[こども医療センター]

・バイキングや野菜収穫体験給食などのイベント給食の実施や、がん治療中の食事の工夫などをまとめた「小児がんと栄養」を刊行するなど、患者の栄養支援を推進した。
 ・褥瘡リスクのある患者について、訪問看護ステーションの訪問看護時に必要な助言を行った。
 ・オープンクベース用の褥瘡予防マットレスを導入したほか、点滴シーネの下貼りテープのサイズの見直しを図り、褥瘡の改善に繋がった。

[こども医療センター・芹香病院]

・こども医療センターの皮膚・排泄ケア認定看護師が芹香病院の褥瘡対策に関する勉強会に出席し助言を行うなど、連携した取組を推進した。

[がんセンター]

・新たに化学療法患者を対象とした栄養料理教室を8回開催し、栄養が高く簡単に食べやすいレシピを67種作成するなど、患者のQOLの向上に寄与した。
 ・外来の取組として、退院した患者に対しても褥瘡完治まで認定看護師が関わる体制を整備し、平成26年度より運用を開始した。

[循環器呼吸器病センター]

・入院患者の高齢化や重症化が進む結核病棟において、入院基本料10対1看護基準を取得し、看護の質の向上を図った。

(参考) [褥瘡患者発生率]

区分	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	分子	分母	測定値									
	新規褥瘡発生患者数(新規褥瘡発生件数)	入院患者数(延べ入院患者数)	褥瘡発生率									
足柄上病院	76件	5,960人	1.28%	61件	6,384人	0.96%	83件	6,396人	1.30%	70件	6,418人	1.09%
こども医療センター	102件	127,883人	0.08%	122件	126,949人	0.10%	163件	129,030人	0.13%	204件	127,991人	0.16%
精神医療センター (芹香病院)	6件	2,974人	0.20%	8件	2,887人	0.28%	8件	3,127人	0.26%	4件	4,119人	0.10%
(せりがや病院)	1件	359人	0.28%	0件	426人	0.00%	0件	349人	0.00%	4件	3,791人	0.11%
がんセンター	78件	10,833人	0.72%	114件	11,905人	0.96%	93件	12,017人	0.77%	0件	408人	0.00%
循環器呼吸器病センター	29件	4,238人	0.68%	37件	4,322人	0.86%	30件	4,396人	0.68%	124件	13,394人	0.93%
										52件	4,330人	1.20%

こども医療センターのみ、分子は新規褥瘡発生件数、分母は延べ入院患者数

(2) 医療安全対策の推進

医療安全対策の推進（小項目29）

・ヒヤリ・ハット事例については、レベル0及びレベル1の件数の増加により、総数が前年度対比で増加した。しかし、患者に高度の後遺症が残る可能性が生じた事例（レベル4）や、患者が死亡する事例（レベル5）については、4年連続で発生していない。

・医療安全対策ワーキンググループを5回開催し、各県立病院の医療事故等の事例報告、事故防止等、再発防止策を確認、検討し共有した。

・ ADR 検討会議を 4 回開催し、全病院に平成27年 4 月から配置することとした院内医療メディエーターに関する必要な規程等を整備するとともに、医療メディエーター養成のため、3月に研修会を開催した。

(参考) [ヒヤリ・ハット事例、医療事故のレベル別報告件数の実績]

区分		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
ヒヤリ・ハット事例	0	1,150件	1,128件	1,273件	1,403件
	1	5,611件	5,899件	6,065件	6,123件
	2	810件	760件	733件	867件
	3a	100件	159件	157件	95件
医療事故	3b	22件	12件	14件	10件
	4	0件	0件	0件	0件
	5	0件	0件	0件	0件
計		7,693件	7,958件	8,242件	8,498件

平成26年度	医療安全会議	リスクマネージャー会議	医療安全に関する研修
	回数	回数	参加者数
足柄上病院	12回	12回	1,145人
こども医療センター	15回	6回	2,409人
精神医療センター (芹香病院)	19回	18回	1,491人
	12回	11回	1,444人
(せりがや病院)	7回	7回	47人
がんセンター	12回	12回	1,153人
循環器呼吸器病センター	11回	11回	1,115人
計	69回	59回	7,313回

[足柄上病院]

・ 【足柄上病院周術期肺血栓栓症・深部静脈血栓症対策ガイドライン】を改定、各科に係る深部静脈血栓症の発症リスクを分類し、それぞれのリスク分類ごとの予防方法を定めた。

・ 持参薬管理の煩雑さを改善するために、患者ごとにソフトケース(収納袋)を準備し情報表示ラベル(氏名・ID、冷所品の有無、継続・中止、薬剤師印)を作成、全病棟での管理方法を統一した。

・ 医療安全巡回で、心電図モニターに関するテクニカルアラームの調査を行った。モニター関連医療事故防止への取り組みとして、心電図に関する安全使用のため手順を定め周知した。

[こども医療センター]

・ 輸血委員会と協働で輸血療法に関する問題点を検討し、輸血療法マニュアルの改訂を行った。輸血担当検査技師と共に継続的に病棟を巡回し、現場での輸血療法の確認・指導を実施した。

・ 平成25年度より引き続き、重大医療事故につながる可能性のある警鐘事例を選定し、関連セクションへ再発防止策の検討と文書化を働きかけ、会議などを通じてセンター全体に周知を図った。

[精神医療センター]

・ 新棟への患者移送時に、リストバンドを全員に装着し患者誤認予防及び安全でスムーズな移転に取り組んだ。

・新棟での緊急時コールの周知徹底を行うとともに、患者誤認防止及び危険物の持ち込み、荷物確認のお願い等の院内の医療事故防止に関する掲示物の見直しを行った。

[がんセンター]

・新病院移転後、病院全体で、5S活動（整理・整頓・清潔・清掃・しつけ）の取り組みを行った。日常の安全行動につながる働きやすい環境の改善につとめ、定着化にむけた活動を行った。医療安全研修では、医療機器（除細動器）の取り扱いについて実施し、急変時に、対応できる知識や技術について周知した。

[循環器呼吸器病センター]

・中心静脈カテーテル挿入手技の安全性を高めるため「中心静脈カテーテルの挿入に関する所内ガイドライン」を作成し手順を明確化するとともに登録医制度を導入した。また、挿入報告書の提出を義務付け挿入件数や合併症の発生率等について院内での情報共有を進めた。

(3) 感染症対策の強化

感染症対策の強化（小項目30）

・神奈川県立病院感染防止対策会議を4回実施し、感染防止対策に関する情報交換や手指衛生に関するサーベイランスや手指衛生教育評価シートによる評価について検討した。

・新型インフルエンザが国内で発生した場合を想定し、県と連携した新型インフルエンザ等対策訓練を実施した。

・各病院において、院内ラウンドや会議・研修、広報誌の発行、また感染症防止対策マニュアルの見直しなど、感染拡大及び発生の防止に向けた取組を推進した。

[足柄上病院、こども医療センター、がんセンター、循環器呼吸器病センター]

・県立病院間による相互評価ラウンドを実施し、特にこども医療センター及びがんセンターにおいて県立病院以外の病院との間で実施するなど、感染防止への啓発及び感染の早期発見、拡大防止に努めた。

・他医療機関との合同カンファレンス等を行い、感染症に関する情報共有やサーベイランス等の取組みなど、感染防止対策を推進した。

[こども医療センター、がんセンター、循環器呼吸器病センター]

・小児感染症、医療関連感染（BSI・SSI等）の発生状況を把握し、対策を徹底するとともに、院内の検出菌の傾向分析や抗菌薬の適正使用を推進した。

[足柄上病院、こども医療センター、精神医療センター、がんセンター]

・職員に風疹や麻疹、また水痘等のワクチン接種を行い、院内感染の防止に努めた。

(参考) [院内感染防止会議の開催実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
足柄上病院	12回	12回	12回	12回	12回
こども医療センター	11回	11回	12回	12回	11回
精神医療センター	23回	24回	23回	23回	19回
(芹香病院)	11回	12回	12回	12回	12回
(せりがや病院)	12回	12回	11回	11回	7回
がんセンター	12回	12回	14回	12回	12回
循環器呼吸器病センター	11回	12回	16回	11回	11回
計	69回	71回	77回	70回	65回

(参考) [感染症防止院内研修の開催実績]

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
足柄上病院	10回	14回	20回	21回
こども医療センター	7回	7回	5回	8回
精神医療センター	6回	6回	6回	4回
(芹香病院)	3回	3回	3回	3回
(せりがや病院)	3回	3回	3回	2回
がんセンター	19回	13回	12回	21回
循環器呼吸器病センター	15回	16回	12回	14回
計	57回	56回	55回	68回

うち1回は合同開催

(4) 災害対策の推進

災害対策の推進 (小項目31)

・各病院において、災害発生時に備え医薬品等の備蓄を行うとともに、多様な状況の想定や手法による防災訓練を実施した。

(参考) [防災訓練実施回数及び防災訓練参加者数の実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
防災訓練実施回数	12回	14回	14回	15回	18回
防災訓練参加者数	2,316人	1,649人	1,537人	1,442人	1,501人

[足柄上病院]

- ・ D M A T 体制強化のため、平成26年11月に新たに隊員 2 名を養成するとともに、厚生労働省主催の D M A T 研修に 3 名参加し、活動に必要な知識、技術の向上に努めた。
- ・ 県西地域の災害拠点病院として災害時対応の強化を図るため、机上訓練及びトリアージポスト設置訓練を 7 月に実施した。また、8 月には大規模災害発生時を想定したビッグレスキューかながわ (神奈川県・小田原市合同総合訓練) に参加し、夜間・休日の災害発生時における初動対応や、トリアージ訓練を他の医療機関 D M A T と連携し実践するなど災害時の救急医療体制の強化に努めた。
- ・ 地域住民に対し D M A T の役割や活動等について講演を行った。

[こども医療センター]

・ 夜間想定防災訓練、転入職員対象防災訓練といった目的や対象を明確にした防災訓練に加え、新たに机上防災訓練を実施した。また、訓練内容も出火場所を秘匿とするなど、より実践的な訓練とした。

- ・ 南区災害医療連絡会議で、災害時医療に関する意見交換や情報共有を行っており、

衛星携帯電話を使用した通信訓練を定期的を実施した。

[精神医療センター]

- ・ 免震構造による新病院を平成26年12月に開院した。
- ・ 新病院開院にあわせて消防計画を策定するとともに、夜間想定防災訓練や消防訓練機器取扱訓練を実施した。

[がんセンター]

- ・ 夜間防災訓練や患者避難のための誘導訓練など、多角的な訓練を実施した。

[循環器呼吸器病センター]

- ・ 大規模災害を想定したトリアージ訓練を含めた総合訓練や夜間時における火災発生を想定した訓練をいずれも状況付与型訓練として実施した。
- ・ 地震等の発生時に、病院敷地内にある井戸水を生活用水として確保できるよう、井戸ポンプの改修を行った。

(5) 情報セキュリティの強化

情報セキュリティの強化（小項目32）

- ・ 神奈川県立病院機構独自のネットワークに関して、ネットワークへ接続するには、共通利用パソコンなど、予め登録してあるものに制限している。また、ウィルス対策ソフトは、最新の情報に更新しセキュリティ対策を行っている。
- ・ 各所属に設置したファイルサーバのデータ及び人事給与システムや財務会計システムのバックアップを自動取得し、災害等によるデータ損失を防止する対策を講じている。
- ・ 新採用及び転入職員等に情報セキュリティポリシーに関する研修を実施し、日常業務における情報管理、セキュリティ対策のポイントや注意事項を説明し、理解を深めた。

（参考）[情報セキュリティ研修参加者数の実績]

実施日	対象	参加者数
4月10日	新採用職員・転入職員対象	262人
10月17日	こども医療センター	120人
10月23日	こども医療センター	86人
2月19日	循環器呼吸器病センター	23人
3月19日	精神医療センター	33人
3月19日	足柄上病院	38人
3月23日	がんセンター	69人
	計	631人

3 患者の視点に立った病院運営

(1) 患者にとって分かりやすい医療の提供

クリティカルパスの適用状況（小項目33）

- ・ 各病院において、患者や家族が理解して医療を選択できるよう、インフォームドコンセントを推進するとともに、医療内容の標準化や共有化に向けたクリティカルパスの作成や見直しなど拡大に努めた。

[足柄上病院]

- ・ クリティカルパス検討会議（年6回）を開催し、平成26年度に「頸椎形成術」など

新規のクリティカルパス 3 件を作成するとともに、「腰椎形成術」など 2 件の見直しを行った。

[こども医療センター]

・クリティカルパス検討会議を 1 回開催し、泌尿器科、耳鼻咽喉科の 27 件のパスの見直しを行った。

[精神医療センター]

・6 月に新病院開院に向けて設置した精神医療センタークリティカルパス会議を 10 回開催し、うつ病パスの評価・修正を行った。

[がんセンター]

・クリティカルパス検討会議を 12 回開催し、新規に「シスプラチン + ナベルピン療法クリティカルパス」をはじめとして 14 件を作成した。

[循環器呼吸器病センター]

・クリティカルパス検討会議を 7 回開催し、適宜見直すとともに、新たに「デバイス植え込み手術」のパスを作成した。

(参考) [クリティカルパスの件数実績]

病院名	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
					新規	改定(見直し)	廃止	件数
足柄上病院	66件	70件	71件	73件	3件	2件	0件	76件
こども医療センター	28件	29件	89件	88件	0件	27件	1件	87件
精神医療センター	5件	6件	7件	9件	0件	1件	0件	9件
(芦香病院)	3件	3件	3件	4件	0件	1件	0件	4件
(せりがや病院)	2件	3件	4件	5件	0件	0件	0件	5件
がんセンター	50件	32件	37件	47件	14件	16件	0件	61件
循環器呼吸器病センター	18件	20件	21件	21件	1件	3件	0件	22件
計	167件	157件	225件	238件	18件	49件	1件	255件

医療福祉相談等の実施 (小項目34)

・各病院の地域医療連携室等において、患者及び家族が医療内容を適切に理解し安心して治療や検査を行えるよう、医療関係のみならず福祉関係や経済関係の問題も含めた多様な相談に次のとおり対応した。

[足柄上病院]

・地域医療連携室、患者さん相談室において専門相談員が患者・家族との対面相談を行い、問題解決のための相談を実施した。

[こども医療センター]

・小児がん拠点病院として、小児がん相談支援室が中心となり、医師・小児看護専門看護師をはじめ、がん相談支援に関する研修を受けた相談員などが、小児がんに関する相談について、こども医療センターの患者・家族のみならず、他病院の患者や地域医療機関等から 1,107 件(前年度比 280 件の増)の相談に対応した。

・「新しい命のためのサポートセンター」では、産婦人科、遺伝科などの医師や認定遺伝カウンセラーらが先天性の障がいや疾患に関する相談に応じ、心理的、社会的サポートを通して当事者の自律的な意思決定を支援した。

遺伝カウンセリング外来	79家族
妊娠前外来	27家族
胎児相談外来	35家族
胎児心臓病外来	延304人

・神奈川県から受託している小児救急電話相談(#8000)事業について、14,747件(前年度比630件増)の相談に対応した。

[精神医療センター]

・福祉医療相談科において、救急・ストレスケアをはじめとした患者、家族からの各種相談に対応するとともに、病棟専任スタッフが患者や家族に対する医療観察法制度の説明や相談に応じる家族会を開催した。

・依存症により生じた家族関係や就業・経済的問題など、社会的側面の問題を持つ患者・家族からの相談に応じるとともに、急増した危険ハープ等で不安を抱えた家族の面接相談を積極的に行った。

[がんセンター]

・6月からがん情報サービスの電話相談と統合運営を開始した。

・医療相談支援室において、看護師又はソーシャルワーカーが、経済的問題及び家庭環境に係る医療福祉問題などの多様な相談に対応した。

・がんセンターは、患者・家族のがんに対する不安や疑問に対応するため、相談個室、患者向けの情報コーナー、患者サロン等において、がんに関する各種情報の提供や、患者と同じ経験を持つ者による支援(ピア・サポート)等に取り組んだ。

患者サロン運営回数 4回/月 利用者数 718名

情報コーナー 情報検索PC 2台

[循環器呼吸器病センター]

・地域連携室の看護師、ソーシャルワーカーが地域の医療機関を積極的に訪問し、連携を深めることにより、逆紹介をはじめとする医療相談や福祉相談の充実を図った。

(参考) [相談件数実績(地域医療連携室等への診療相談)]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
足柄上病院	11,473件	11,264件	11,439件	10,793件	13,366件
こども医療センター	24,130件	21,933件	27,137件	15,751件	16,768件
精神医療センター	4,863件	5,070件	5,315件	4,661件	4,586件
(芹香病院)	4,593件	4,679件	4,817件	4,208件	4,173件
(せりがや病院)	270件	391件	498件	453件	413件
がんセンター	9,825件	9,354件	8,352件	7,927件	8,787件
循環器呼吸器病センター	8,284件	11,416件	14,497件	13,786件	11,513件
計	58,575件	59,037件	66,740件	52,918件	55,020件

(参考) [がんセンターにおける相談件数(内訳)]

平成26年度実績	医療相談支援室	がん臨床研究・情報機構	計
相談延件数	8,601件	186件	8,787件
うち電話	4,261件		4,447件

セカンドオピニオンの推進(小項目35)

・各病院において、患者自らが治療の理解を深め、納得して治療法を選択できるよう、

ホームページへの掲載や院内での掲示などにより、セカンドオピニオンの推進に努めた。

(参考) [セカンドオピニオン件数の実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
足柄上病院	1件	2件	0件	0件	0件
こども医療センター	39件	33件	63件	32件	52件
精神医療センター	3件	4件	12件	11件	5件
(芹香病院)	2件	3件	12件	11件	5件
(せりがや病院)	1件	1件	0件	0件	0件
がんセンター	686件	668件	689件	792件	819件
循環器呼吸器病センター	43件	40件	55件	51件	72件
計	772件	747件	819件	886件	948件

患者満足度調査の実施 (小項目36)

・各病院において、患者の病院に対する評価や意見を把握し、改善を図るため、入院・外来患者を対象とした患者満足度調査を実施するなど、患者サービスの向上に努めた。

・患者満足度調査においては、共通項目として、「全体的にこの病院に満足している」の設問を設定しており、その結果は次のとおり。

(参考) [満足度調査結果 (平成22年度)]

区分	入院		外来	
	回答総数	満足度	回答総数	満足度
足柄上病院	125人	95.6%	450人	51.0%
こども医療センター	216人	79.0%	1,180人	53.3%
芹香病院	136人	65.5%	272人	62.0%
せりがや病院	44人	66.5%	-	-
がんセンター	285人	91.5%	787人	83.1%
循環器呼吸器病センター	136人	88.2%	215人	85.6%

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

(参考) [満足度調査結果 (平成23年度)]

区分	入院			外来		
	満足評価	回答総数	満足度	満足評価	回答総数	満足度
足柄上病院	95人	99人	96.0%	171人	221人	77.4%
こども医療センター	129人	160人	80.6%	1,012人	1,298人	78.0%
芹香病院	79人	125人	63.2%	156人	301人	51.8%
せりがや病院	31人	43人	72.1%	131人	165人	79.4%
がんセンター	261人	295人	88.5%	630人	765人	82.4%
循環器呼吸器病センター	183人	210人	87.1%	365人	412人	88.6%

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

(参考) [満足度調査結果(平成24年度)]

区分	入院				外来			
	満足評価	回答総数	満足度	配布数	満足評価	回答総数	満足度	配布数
足柄上病院	93人	98人	94.9%	200	217人	258人	84.1%	390
こども医療センター	135人	158人	85.4%	313	723人	972人	74.4%	2,000
芹香病院	69人	111人	62.2%	127	171人	345人	49.6%	345
せりがや病院	33人	43人	76.7%	52	98人	105人	93.3%	112
がんセンター	284人	311人	91.3%	378	574人	704人	81.5%	843
循環器呼吸器病センター	163人	185人	88.1%	400	342人	397人	86.1%	600

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

(参考) [満足度調査結果(平成25年度)]

区分	入院				外来			
	満足評価	回答総数	満足度	配布数	満足評価	回答総数	満足度	配布数
足柄上病院	73人	78人	93.6%	200	187人	226人	82.7%	400
こども医療センター	178人	193人	92.2%	352	723人	913人	79.2%	1,717
芹香病院	82人	121人	67.8%	158	138人	280人	49.3%	280
せりがや病院	30人	35人	85.7%	39	123人	139人	88.5%	159
がんセンター	313人	332人	94.3%	344	720人	789人	91.3%	876
循環器呼吸器病センター	161人	178人	90.4%	300	362人	405人	89.4%	600

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

(参考) [満足度調査結果(平成26年度)]

区分	入院				外来			
	満足評価	回答総数	満足度	配布数	満足評価	回答総数	満足度	配布数
足柄上病院	69人	75人	92.0%	200	205人	243人	84.4%	400
こども医療センター	129人	132人	97.7%	328	840人	863人	97.3%	1,936
精神医療センター	110人	163人	67.5%	209	157人	250人	62.8%	276
がんセンター	324人	348人	93.1%	670	798人	887人	90.0%	1,000
循環器呼吸器病センター	188人	205人	91.7%	400	271人	315人	86.0%	600

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

< 患者満足度調査の意見を踏まえた取組 >

[足柄上病院]

- ・病院敷地内の休憩広場に、患者さんが楽しめるよう季節の花を植えたプランター50鉢を設置した。

[こども医療センター]

- ・ホームページをこどもも親しみやすいデザインにするなどのリニューアルを行った。
- ・幼児向け以外の図書も購入し、プレイルームや待合室に配架した。
- ・エレベータの行き先の違いが分かるようにデザインを改めた。
- ・外来食堂でメニューの多様化を図ったほか、呼び出しシステムを導入し、利用者が待ち時間を負担に感じないような工夫を行った。

[精神医療センター]

- ・新病院開院に伴い、コンビニエンスストアや食堂、ATMを整備するとともにラウンジにテーブルやイスを設置した。
- ・外来看護師が定期的にラウンドを実施し、車の乗降などを補助した。

[がんセンター]

・入院、外来、化学療法などの料金表を作成することで患者や家族にとって費用が明確にわかるように工夫した。

[循環器呼吸器病センター]

・患者・家族の来院時の利便性向上のため、無料送迎バスの最終便の延長、駐車場事前精算機の新設、歩道の改修工事等を実施した。

< その他患者サービス向上の取組 >

[こども医療センター]

・患者家族待合室やトイレの内装の改修を行ったほか、一部病棟に給茶機を設置し、患者・家族が快適に病院を利用できるような取組を行った。
・病棟内でお好み焼き、ハローウィンクッキー作りなどの親子イベント給食を実施し、患者の栄養支援の強化を図った。

[がんセンター]

・情報コーナーに栄養サポートに関するパネルを掲示し、季節ごとの簡単料理メニューの献立を配布するなど外来満足度向上に向けた取り組みを行った。また、入院患者に対して年3回の嗜好調査を実施し、給食に取り入れることで汁物とおかずについて満足度が向上した。

(2) 県民への病院・医療情報提供の充実（小項目37）

・各病院の有する機能や特性を踏まえた治療法、また医療情報を適切に理解していただくため、各病院において、次のとおり公開講座の開催や広報誌、及びホームページを通じた情報の提供に努めた。
・ホームページについて、動画の掲載を開始するとともに、ツイッターやブログを活用した講座やセミナーのお知らせや院内イベントの掲載を行うなど、より親しみやすい内容と見やすい構成とした。

[足柄上病院]

・公開講座等の開催（20回）
医学講座（2回）「ときどき入院、ほぼ在宅」など
出前講座（12回）「給食従事者のための腰痛予防」など
講演会（6回）「糖尿病について」
・広報誌の発行
病院情報誌「かけはし」の発行及び病院ホームページへの掲載（年3回） 発行部数
2,000 部
タウンニュース掲載
医療レポート 年5回

[こども医療センター]

・公開講座等の開催
「学術集談会」「公開講座」「小児救急キッズセミナー」「心肺蘇生講習会」「小児がん相談支援室セミナー」など22回開催したほか、百貨店と連携したアレルギー講演会を

1回開催した。

・ホームページをこどもも親しみやすいデザインにするなどのリニューアルを行ったほか、英語版、中国語版、韓国・朝鮮語版のホームページを整備した。

・広報誌の発行

「こども医療通信」季刊 発行部数3,000部～5,000部

「地域連携室だより」年3回 発行部数3,000部

・医師や看護師を志す高校生や地域の方々を対象とした病院見学会を開催した。

・ファシリティ・ドッグ「ベイリー」をはじめ、各診療科の医師や看護師などがテレビや新聞などの取材を受けたほか、毎週土曜日、FM戸塚のラジオ番組「ラジオの絆」で病院の様々な取組の紹介を行った。

[精神医療センター]

・公開講座等の開催

「うつ病診断補助の臨床マーカー最前線 - 目に見えるようになりつつあるところの病 - 」など8回

・広報誌の発行

センターだより 1,500部

・新病院の開院にあわせてホームページを更新するとともに、外来・入院のご案内など各種パンフレットを作成した。

[がんセンター]

・公開講座等の開催

「科学技術週間公開講座」、「市民講座」、「ブラックジャックセミナー」、「重粒子線について」など7回

・広報誌「がんセンターだより」年3回発行 2,250部

・ホームページのリニューアル

見やすく、分かりやすいように、写真やイラストなどを盛り込み、分かりやすい医療情報の提供に努めた。

[循環器呼吸器病センター]

・公開講座等の開催

「COPD・禁煙・呼吸リハビリ」など8回

・広報誌の発行

「肺がん包括センターだより（年10回発行）」など

(参考) [公開講座の実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度	
				目標値	実績	目標値	実績
足柄上病院	12回	13回	19回	18回	17回	20回	20回
こども医療センター	9回	8回	12回	8回	19回	12回	23回
精神医療センター	5回	9回	8回	13回	16回	6回	8回
(芹香病院)	4回	7回	7回	12回	15回		
(せりがや病院)	1回	2回	1回	1回	1回		
がんセンター	6回	3回	4回	4回	5回	4回	7回
循環器呼吸器病センター	10回	8回	9回	7回	8回	8回	8回
計	42回	41回	52回	50回	65回	50回	66回

(3) 患者の利便性の向上

待ち時間の短縮の取組（小項目38）

- ・各病院において、待ち時間の短縮を図るとともに、患者の負担を軽減する取組を行った。
- ・診療の待ち時間に対する患者満足度調査を行っている足柄上病院及びがんセンターでは約6割、精神医療センター及び循環器呼吸器病センターでは約7割の利用者が「満足」や「普通」という旨の回答であった。
- ・各病院が行った待ち時間対策は次のとおり。

[足柄上病院]

- ・外来待合室に医療情報用ディスプレイやタッチパネルパソコンによる認知症スクリーニング用プログラム及び全自動血圧計を設置することなどにより、待ち時間の負担軽減を図った。

[こども医療センター]

- ・採血時に検査科と外来看護師が連携し、受付などの業務を行い、検査待ち時間の短縮を図った。
- ・クレジットカードによる入院費用支払保証書の提出を受け、月初や退院時の会計手続を不要とし、会計待ちを不要とするサービスに積極的に取り組んだ。
- ・院外の調剤薬局における待ち時間短縮のため、患者が処方箋を調剤薬局へ送信できるようファックスを設置した。
- ・患者の手術室入室後、家族にPHSを渡し、待ち時間に対する負担軽減を図った。

[精神医療センター]

- ・院外処方の推進により、外来の待ち時間の短縮を図るとともに、電子カルテシステムの稼働に合わせて外来患者の診察待ち状況や会計待ち状況を表示する機器を設置し、待ち時間の負担軽減を図った。

[がんセンター]

- ・外来診療待機用にソファ及び椅子を配置した。

[循環器呼吸器病センター]

- ・平成27年1月の電子カルテシステムの稼働に合わせて診察の進行状況を表示する案内板を外来各所に設置したほか、外来待合室のテレビや照明を増設するなど、待ち時間の負担軽減に努めた。

支払方法の多様化の取組（小項目39）

- ・クレジットカード、デビットカード及びコンビニエンスストア収納の利用件数は次のとおりであり、実績は増加している。

(参考) [クレジットカード、デビットカード、コンビニ収納利用件数の実績]

区分	クレジットカード					デビットカード				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
足柄上病院	4,886件	4,993件	5,194件	6,360件	6,959件	18件	28件	39件	47件	52件
こども医療センター	8,926件	8,947件	9,649件	10,798件	11,202件	118件	107件	102件	102件	121件
精神医療センター	2,315件	2,171件	2,501件	1,707件	2,028件	177件	104件	132件	91件	183件
(芹香病院)	2,068件	1,724件	2,029件	1,130件	1,577件	175件	96件	131件	84件	172件
(せりがや病院)	247件	447件	472件	577件	451件	2件	8件	1件	7件	11件
がんセンター	25,692件	25,773件	29,763件	35,347件	45,337件	1,202件	1,702件	1,189件	1,415件	2,554件
循環器呼吸器病センター	9,708件	9,505件	10,572件	12,031件	13,105件	52件	234件	221件	181件	178件
計	51,527件	51,389件	57,679件	66,243件	78,631件	1,567件	2,175件	1,683件	1,836件	3,088件

区分	コンビニ収納					合計				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
足柄上病院	960件	850件	801件	611件	854件	5,864件	5,871件	6,034件	7,018件	7,865件
こども医療センター	81件	187件	951件	1,147件	1,572件	9,125件	9,241件	10,702件	12,047件	12,895件
精神医療センター	1,188件	1,105件	2,132件	978件	1,200件	3,680件	3,380件	4,765件	2,776件	3,411件
(芹香病院)	977件	834件	1,601件	769件	1,077件	3,220件	2,654件	3,761件	1,983件	2,826件
(せりがや病院)	211件	271件	531件	209件	123件	460件	726件	1,004件	793件	585件
がんセンター	152件	49件	22件	43件	43件	27,046件	27,524件	30,974件	36,805件	47,934件
循環器呼吸器病センター	276件	346件	352件	162件	48件	10,036件	10,085件	11,145件	12,374件	13,331件
計	2,657件	2,537件	4,258件	2,941件	3,717件	55,751件	56,101件	63,620件	71,020件	85,436件

(4) ボランティア・NPOとの協働 (小項目40)

- ・日本語を母国語としない患者の診療等の際に、患者と医療スタッフとのコミュニケーションを補助し、治療を円滑に行うことを目的とした通訳ボランティアの支援を受けた。
延利用件数：472件
- ・各病院において、ボランティア団体等の協力による院内案内や飾りつけ、コンサートなどの患者への安らぎを与える様々な活動を次のとおり推進した。

[足柄上病院]

- ・ランパス、杉の子会、松田絵手紙の会、音楽ボランティア会、受付介助ボランティア会の各団体との連携により、多岐にわたる活動が行われた。
- ・平成26年度から認知症やせん妄状態にある患者の見守りや話し相手などを行なう看護職ボランティアを募集し、5名のボランティアの方が病棟で活動している。

[こども医療センター]

- ・患者の療養環境の向上や診療に対する恐怖感の軽減のため、28団体のボランティア団体(統括組織: オレンジクラブ、構成員: 376人)の協力により、各種活動(演奏会、遊び相手、生け花、園芸、装飾品の作成・展示等)や療育支援(介添え、院内誘導等)が行われた。
- ・入院患者の家族滞在施設(リラのいえ)に対し、利用希望者等からの相談、紹介等を通じて運営の支援を行った。

利用家族数 420家族 利用者数 4,923人

延べ宿泊数 2,456日

- ・NPOから提供されたファシリテッドッグを活用し、こころの診療病棟の患者を対象に治療の補助として用いる動物介在療法を実施したほか、病棟のプレイルーム等における患者・家族との触れ合いによる動物介在活動を4,998回実施した。
- ・NPOからサンタの病棟訪問やポニーの病院訪問を受けたほか、篤志家からメリーゴーランド、クリスマスイルミネーションの提供を受けることなどを通じ、患者の入院生活の質の向上や診療に対する恐怖感の軽減に努めた。

[精神医療センター]

- ・ボランティアの協力を得て、患者の社会性を養うことなどを目的としたデイケアプログラムを2回開催した。
- ・依存症の患者や家族で構成する自助グループ（断酒会・A A）等の協力を得て、入院患者に対し、治療プログラムを実施した。

[がんセンター]

- ・患者の生活の質の向上、がん患者の不安や悩みの軽減を図るため、情報コーナー、患者サロンを活用した。また、患者団体、ボランティアとの協働によるピア・サポート等の取組を充実させた。
- ・ボランティア団体により、ひな祭りや七夕等季節の催し、移動図書、病棟・外来案内、音楽(ミニコンサート)ボランティア及び緩和ケア病棟での散歩や話し相手等の協力を得た。

[循環器呼吸器病センター]

- ・患者が安心して診療を受けられるようボランティア2団体の協力により、院内案内、車いすの介助、移動図書の巡回、園芸活動、ミニコンサートなどの催し等を行った。

(参考) [ボランティア団体数]

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
足柄上病院	5	5	5	5
こども医療センター	25	26	27	28
精神医療センター (芹香病院)	8	8	9	7
(せりがや病院)	2	2	7	
	6	6	2	
がんセンター	2	2	2	2
循環器呼吸器病センター	2	2	2	2
計	42	43	45	44

4 医療人材の確保と育成

(1) 医師の確保と育成

医師の確保と育成の取組（小項目41）

- ・平成27年3月31日時点で、後期臨床研修医を除く医師の必要数320人のところ、現員数が298人（3月31日付退職者を含む）で、充足率は93.1%である。
- ・医師確保については、連携協力のある大学医学部からの医局ローテーションを基礎としつつ、それ以外の手法（公募や人的ネットワークの活用）による採用とあわせ、平成26年度は72人（前年度比1人減）採用した。
- ・後期臨床研修医については、足柄上病院1人（前年度比増1人）、こども医療センター46人（同5人）、がんセンター29人（同1人減）、循環器呼吸器病センター6人（同1人減）と前年度比6人減の合計82人を受け入れた。

[こども医療センター、がんセンター]

- ・連携大学院の協定を締結した横浜市立大学等と共に、医師の確保や育成を推進した。（客員教授等への就任）

こども医療センター医師5名

がんセンター医師1名、化学職3名

(社会人大学院への就学)

こども医療センター医師 4 名

がんセンター医師 2 名

(大学院生の受入)

こども医療センター 1 名

[こども医療センター]

・ 県内医療機関が相互に連携して小児医療臨床研修を実施し、小児専門医を育成する「神奈川小児医療専門医研修ネットワーク」の発足に向け、検討を行った。

[がんセンター]

・ 平成26年度は7人ががん専門医を取得するとともに、独立行政法人放射線医学総合研究所へ医師1名、診療放射線技師2名を派遣するなど、人材育成を推進した。

(参考) [後期臨床研修医の採用数の実績]

区分	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
足柄上病院	2人	2人	2人	0人	1人
こども医療センター	43人	43人	43人	51人	46人
精神医療センター	0人	0人	1人	0人	0人
がんセンター	28人	28人	31人	30人	29人
循環器呼吸器病センター	5人	5人	7人	7人	6人
計	78人	78人	84人	88人	82人

(2) 看護師の確保と育成

看護師の確保と育成の取組 (小項目42)

・ 県立5病院それぞれが実施主体となり、採用時に受験した病院に配属される配属確定型試験を8回実施した。また、県立5病院合同で本部事務局が実施する全病院対象型試験を3回実施し、併せて計11回の採用試験を行った。その結果、看護職員数は平成27年4月1日現在で昨年度比35人増の1,561人となった。

・ 民間企業主催の合同就職説明会に本部事務局主導にて5回参加した。その結果、合計634名の看護学生等が本機構ブースに訪問し、本機構の魅力・概要等を伝えた。

・ 修学資金の借受生全23人のうち、平成26年度卒業生15名がそれぞれ希望する県立病院機構の病院に就職した。

(参考) [修学資金借受生の内訳]

区分	卒業年度				合計
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
足柄上病院	2人	-	-	-	2人
こども医療センター	7人	-	-	-	7人
精神医療センター	2人	-	-	-	2人
がんセンター	4人	-	-	-	4人
循環器呼吸器病センター	0人	-	-	-	0人
未定	0人	4人	3人	1人	8人
合計	15人	4人	3人	1人	23人

・ 平成26年度の看護職員によるカウンセラーへの相談件数は、全病院合計で延べ171件 (前年度比20件増) ・実人数64人 (前年度比6人減) であった。

(参考)「看護職員 カウンセリングルーム相談件数」

病院名	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	延件数	実人数	延件数	実人数	延件数	実人数
足柄上病院	38件	26人	21件	21人	41件	33人
こども医療センター	66件	28人	30件	21人	17件	11人
精神医療センター	32件	8人	19件	7人	17件	3人
がんセンター	22件	8人	45件	14人	26件	6人
循環器呼吸器病センター	20件	7人	36件	7人	70件	11人
合計	178件	77人	151件	70人	171件	64人

・プリセプターシップをはじめ、パートナーシップ・ナーシング・システム®(PNS)の一部導入や、キャリア形成体系に基づき5段階のステップ研修等を実施することにより、看護師の育成とその定着を図った。

・看護職研修を定期的実施し、看護師の定着を図るため、労務管理についても理解を深め、働きやすい環境作りに努めた。

(参考)「平成26年度 看護職研修の実績(本部実施分)」

コース種類	専門コース	専門コース		管理コース	管理コース	管理コース	計	(参考)平成25年度
	医療安全	ベーシック	アドバンス	キャリア形成	リーダーシップ	労務管理		
参加者数	15人	23人	18人	17人	13人	27人	113人	101人

・eラーニングによる研修制度により、日々の業務手順の確認に活用するとともに、特に新卒看護師に対しては、業務における不安の解消に役立てた。

・リアリティショック軽減に向けた教育体制等により、新卒看護師の離職防止に取り組んでいるものの、多重課題への対応困難者や、病院以外の施設への転職者等が生じたことにより、離職率は、平成26年度11.0%となり、目標値である8.5%未満は達成できなかった。

[新卒看護師離職率の実績と目標値]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
病院機構の新卒看護師採用人数	-	93人	-	122人	-	127人	-	112人	-	109人
病院機構の新卒看護師退職人数	-	8人	-	14人	-	7人	-	6人	-	12人
病院機構の新卒看護師離職率	-	8.6%	9.5%未満	11.5%	9.5%未満	5.5%	9.5%未満	5.4%	8.5%未満	11.0%
神奈川県の新卒看護師平均離職率	-	8.8%	-	8.8%	-	8.8%	-	8.1%	-	-
全国の新卒看護師平均離職率	-	8.1%	-	7.5%	-	7.9%	-	7.5%	-	-

・平成26年度には、新たに認定看護管理者5名、認定看護師5名が取得し、県立病院機構全体で専門看護師等の有資格者は、合計98名(前年度比7人増)となり、専門能力が発揮できるよう配置を工夫している。

・看護学生の実習については、看護専門学校等より平成26年度合計1,328人(前年度比256人減)受け入れた。

(参考)「看護実習受入実績」

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
保健福祉大学	139人	160人	141人	149人	146人
衛生看護専門学校	241人	197人	203人	231人	86人
よこはま看護専門学校	501人	613人	486人	517人	488人
平塚看護専門学校	93人	75人	155人	99人	52人
その他	682人	489人	621人	588人	556人
計	1,656人	1,534人	1,606人	1,584人	1,328人

・各種会議の場において経営状況の周知や意見交換を実施するとともに、個別面談や研修の実施により、経営への意識の向上を推進した。

[こども医療センター・がんセンター]

・神奈川県立保健福祉大学との連携協定に基づき、職員の大学院への進学や、実習生の受け入れ、職員の講師派遣などの連携の強化を図った。なお、こども医療センターは、保健福祉大学で開設に向けて準備している小児専門看護師コースにおける役割などについて、関係機関と調整を行った。

(3) コメディカル職員等の確保と研修の充実

コメディカル職員等の確保と研修の実施（小項目43）

- ・コメディカル職員については、職場の実態に即し、一般採用試験に加え、即戦力となる経験者を対象とする経験者採用試験を実施し、18名(前年度15名)の職員を確保した。
- ・福祉職については、職場の実態に即し、相談・心理・介護の分野ごとに試験区分を設け、業務に応じた職員の確保に努めた。
- ・コメディカル職員等の資質の向上のため、県機関、各種学会等が実施する外部研修に参加させ、専門性の向上を図るとともに、コメディカル職員を中心に中堅職員研修を実施し、リーダーシップ能力の向上を図った。

(4) 勤務環境の改善の取組（小項目44）

- ・看護師など医療従事者の多様な勤務形態に合わせた保育を実施するため、週2日程度の24時間保育を引き続き実施した。
- ・年次有給休暇を取得しやすくするような職場環境の整備のため、看護局長会議や事務局局長会議などを通じて職員の年次有給休暇取得促進に向けた取組を推進した。

(参考) [職員1人当たりの年休平均取得日数の実績]

平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
8.4日	8.7日	9.6日	8.9日	8.1日

- ・業務の見直しや効果的・効率的な業務執行を進めるスキルを習得するため、「問題解決手法」や「コミュニケーション手法」に関する研修を実施した。
- ・リーダー的役割を担う中堅の事務・福祉・コメディカル職員を対象に、リーダーシップの発揮の仕方、業務改善の進め方等の研修を実施した。
- ・ワークライフバランスを充実するため、引き続き、短時間勤務常勤職員や夜間専従常勤職員などの多様な勤務形態の導入に向けた検討を行った。

(参考) [リフレッシュ休暇取得率]

平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
44%	34%	39%	49%	47%

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 業務運営体制の確立

業務運営体制の確立の取組（小項目45）

- ・理事会の機能をより適切なものとするため、これまで総長等のみが理事であった体制から、外部登用理事の任命を推進し、平成26年4月1日付けで1名を任命するとともに、理事の半数以上を外部登用理事の構成とできる定款の変更を平成27年4月1日付けで行うなど、経営及び業務の透明化を推進した。
- ・理事会を各所属の幹部が同席する形で開催するなど、職員の経営参画意識の向上に努めた。
- ・経営戦略会議において、所属別の月次決算により、収支の状況を分析し、経営の情報を共有することにより、経営基盤の強化を図った。
- ・病院運営に意欲がある人材を幅広く募集することを目的として、がんセンター総長及び精神医療センター所長の公募を初めて実施した。

2 効率的・効果的な業務運営と経営改善

(1) 効率的・効果的な業務運営

ア 人事・予算の弾力的運用

(ア) 診療体制・人員配置の弾力的運用（小項目46）

- ・円滑な病院運営を行うため、主に新卒者を対象とした一般採用試験のほか、即戦力を確保するための経験者採用試験を併せて実施することで、効果的に正規職員を確保し、医師等医療スタッフの配置を弾力的に行った。

また、契約職員・非常勤職員・短期非常勤職員・再雇用職員など多様な勤務形態の職員を活用することにより、診療体制の強化や正規職員の欠員補充に迅速に対応し、医療ニーズや医療環境等の変化に的確に対応した。

(イ) 予算執行の弾力化（小項目47）

- ・通常備品の配当については、資産規模や購入後10年を超えた機器の割合に応じた配分を行うとともに、前年度の経常利益の計画達成率をもとに配分を行った。
- ・漢方サポートセンター及びワクチンセンターなど特定の事業に対しては、通常の事業とは別に予算調整を行った。

イ 事務職員の専門性の向上の取組（小項目48）

- ・病院経営や診療報酬等の病院特有の事務を行うための知識・経験を有する人材確保に向け、一般採用試験に加え、経験者採用試験を行い、10人の事務職員を採用した。事務経験等を勘案し平成27年4月1日付で本部事務局、各病院（総務課、医事課、経営企画課）に配置した。
- ・事務職員を対象に、病院経営に係る基礎的能力等の向上を目的とした簿記研修や独立行政法人制度に関する研修等を引き続き実施した。
- ・病院機構採用事務職員が配属所属以外の病院等において、業務を体験又は経験することを通じて、幅広い視野を持ち、自らの業務の改善に役立てることができる職員を養成するとともに、組織における人材育成の風土を醸成させていくことを目的に病院等での現場研修を実施した。
- ・診療報酬の基礎的な知識を習得するため、診療報酬基礎セミナーを実施した。

ウ 職員の経営参画意識の向上の取組（小項目49）

- ・事務職員を対象に病院経営に係る基礎能力・応用能力、企画能力、経営分析能力等を養成、強化する取組として、病院経営に関する問題解決能力強化研修を実施した。
- ・配属所属以外の病院等の体験研修において、研修受講者に病院幹部による院内運営会議や理事会等へ出席する機会を設け、職員の経営参画意識の向上を図った。
- ・リーダー的役割を担う中堅の事務・福祉・コメディカル職員を対象に、リーダーシップの発揮の仕方、業務改善の進め方等の研修を実施し、業務の効率化や職務能力の向上を図った。
- ・職員の業務運営の効率化や経営改善に関する優れた取組について、発表会形式の審査会により受賞者を決定する理事長表彰を実施した。
- ・職員全員に配布する「病院機構通信」に決算の状況及び課題等を掲載し、全職員に対して経営状況を周知した。
- ・月次決算において、単月ごとの目標達成状況を示し、計画達成に向けた取組について経営会議等で検討を行った。
- ・事務職員のみを対象としていた公認会計士による財務分析研修に、看護師も参加させた。
- ・通常備品の配当については、資産規模や購入後10年を超えた機器の割合に応じた配分を行うとともに、前年度の経常利益の計画達成率をもとに配分を行った。

エ ITの活用による効率的な医療提供の推進（小項目50）

[こども医療センター]

- ・電子カルテシステムを活用するなどして、小児医療全体を概観的に捉えることができる「診療の質(QI)」の指標を前年度より5項目多い、46項目について作成し、公表した。また、当センター以外の8つの小児専門病院においても当センターをモデルに一部項目について指標化され、比較を行い、医療の質の改善の検討を進めていった。

[精神医療センター]

- ・平成26年12月の新病院開院にあわせ、電子カルテシステムを導入した。

[循環器呼吸器病センター]

- ・平成27年1月に電子カルテシステムを導入した。

オ 効率的な事務執行の推進（小項目51）

- ・共同購入に係る対象品目数を拡大し、各病院の契約事務に係る負担軽減とスケールメリットが得られるような取り組みを進めた。
- ・診療材料の共同購入に神奈川リハビリテーション事業団を加え規模の拡大を図った。

[こども医療センター]

- ・委託業務や診療材料の見直しに関するコンサルタントを導入し、経費の節減を図った。

[精神医療センター]

- ・総合維持管理業務委託の入札において、最低制限価格を設けて低価格による入札を防ぎ、業務の質を担保した。

(参考) [共同購入の対象品目数]

区分		平成25年度	平成26年度
医薬品	上半期	4,037品目	4,033品目
	下半期	4,037品目	4,039品目
診療材料		570品目	504品目 (リハ事業団分を除き463品目)
検査試薬		1,406品目	1,361品目
消耗品		57品目	73品目
備品		0品目	6品目

(2) 経営改善の取組

ア 収益の確保

収益の確保の取組 (小項目52)

[病床利用率・平均在院日数・入院実患者数の目標値]

区分	病床利用率					平均在院日数				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
足柄上病院	80.2%	77.6%	78.0%	78.5%	76.6%	13.1日	12.5日	12.3日	12.1日	12.2日
こども医療センター (病院) (施設)	85.1%	82.8%	85.8%	83.1%	82.5%	14.6日	14.1日	15.4日	14.7日	14.2日
	85.0%	81.1%	84.9%	83.6%	86.4%	(93.0日)	(95.8日)	(89.7日)	(83.2日)	(83.0日)
精神医療センター (芹香病院) (せりがや病院)	83.0%	76.8%	79.9%	78.6%	76.9%	133.3日	100.1日	126.4日	134.9日	100.2日
	80.0%	73.3%	70.9%	65.0%		70.8日	70.7日	67.0日	53.6日	
がんセンター	85.4%	77.1%	77.8%	79.4%	85.5%	16.2日	14.7日	14.4日	14.0日	14.3日
循環器呼吸器病 (一般) センター (結核)	81.4%	82.8%	82.9%	83.2%	79.0%	13.6日	13.5日	13.5日	12.4日	11.8日
	74.8%	65.6%	62.8%	61.1%	59.3%	(64.0日)	(60.0日)	(62.0日)	(65.6日)	(75.9日)
区分	入院実患者数									
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
足柄上病院	5,900人	6,000人	6,100人	6,370人	6,160人					
こども医療センター (病院) (施設)	7,000人	7,030人	6,687人	7,070人	7,240人					
	300人	280人	311人	390人	420人					
精神医療センター (芹香病院) (せりがや病院)	700人	870人	613人	796人	1,220人					
	330人	300人	309人	400人						
がんセンター	8,000人	7,900人	8,000人	8,000人	9,000人					
循環器呼吸器病 (一般) センター (結核)	3,900人	4,010人	4,000人	4,497人	4,330人					
	250人	240人	220人	235人	200人					

[病床利用率・平均在院日数・入院実患者数の実績]

区分	病床利用率					平均在院日数				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
足柄上病院	76.2%	74.5%	78.7%	74.8%	78.5%	12.3日	11.9日	12.2日	11.5日	12.1日
こども医療センター (病院) (施設)	82.6%	82.8%	82.6%	83.0%	83.7%	14.7日	15.4日	14.3日	14.2日	13.8日
	85.2%	85.6%	84.5%	89.2%	83.7%	(69.1日)	(77.9日)	(77.5日)	(101.1日)	(88.3日)
精神医療センター (芹香病院) (せりがや病院)	74.8%	65.9%	62.9%	69.7%	81.4%	122.6日	123.5日	115.5日	132.5日	102.7日
	65.9%	61.2%	55.8%	49.2%		60.1日	52.3日	42.7日	45.9日	
がんセンター	76.0%	72.2%	77.8%	77.0%	83.0%	14.9日	14.3日	14.0日	13.4日	12.7日
循環器呼吸器病 (一般) センター (結核)	84.7%	80.0%	77.0%	78.5%	80.9%	13.1日	13.0日	12.2日	12.2日	12.7日
	64.5%	61.4%	58.1%	58.8%	52.0%	(58.6日)	(64.5日)	(66.1日)	(71.1日)	(65.2日)
区分	入院実患者数									
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
足柄上病院	5,968人	6,215人	6,384人	6,243人	6,257人					
こども医療センター (病院) (施設)	6,757人	6,736人	7,180人	7,257人	7,283人					
	405人	429人	434人	365人	312人					
精神医療センター (芹香病院) (せりがや病院)	686人	797人	802人	781人	1,140人					
	320人	386人	426人	355人						
がんセンター	7,753人	7,967人	8,703人	9,003人	10,186人					
循環器呼吸器病 (一般) センター (結核)	4,211人	4,157人	4,188人	4,320人	4,156人					
	241人	241人	274人	204人	175人					

新たな施設基準の取得（小項目53）

- ・診療報酬改定を踏まえた施設基準を迅速に取得するとともに、既存の施設基準についても的確な内容とするよう見直しを行った。
- ・幹部職員で構成される経営戦略会議及び経営会議において査定状況の情報共有を図った。

（参考）[審査機関による査定率の実績]

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度
足柄上病院	0.220%	0.300%	0.330%
こども医療センター	0.580%	0.570%	0.670%
精神医療センター			0.057%
（芹香病院）	0.055%	0.046%	
（せりがや病院）	0.009%	0.051%	0.057%
がんセンター	0.170%	0.180%	0.170%
循環器呼吸器病センター	0.320%	0.450%	0.345%

平成26年度に新たに取得した施設基準

[足柄上病院]

- ・超急性期脳卒中加算
- ・在宅療養後方支援病院
- ・ハイケアユニット入院医療管理料 1
- ・がん患者指導管理料 2
- ・ヘッドアップティルト試験 外 7 項目

[こども医療センター]

- ・診療録管理体制加算 1
- ・医師事務作業補助体制加算 1
- ・がん患者指導管理料 1・2
- ・HPV 核酸検出
- ・時間内歩行試験
- ・胎児胸腔・羊水腔シャント術
- ・歯科口腔リハビリテーション料 2

[精神医療センター]

- ・精神保健福祉士配置加算
- ・強度行動障害入院医療管理加算
- ・精神科急性期医師配置加算
- ・児童・思春期精神科入院医療管理料
- ・コンピューター断層撮影（CT 撮影）

[がんセンター]

- ・急性期看護補助体制加算50対 1
- ・ハイケアユニット入院医療管理料 1
- ・がん患者指導管理料 2・3
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）
- ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 外 4 項目

[循環器呼吸器病センター]

- ・結核病棟入院基本料10対1
- ・心臓ペースメーカー指導管理料（植込型除細動器移行加算）

診療報酬を確保するための総合的な取組（小項目54）

- ・これまで行ってきた未収となっている診療費の支払案内業務委託に加えて、弁護士による債権回収の実施について、検討を進めた。
- ・未収金発生後長期化していた債権を含めて改めて督促を行うことにより、回収対策に取り組んだ。
- ・未収金の回収対策について病院間で情報共有を進めるとともに、当機構以外の病院の視察を行うなど、未収金の発生防止の検討を進めた。

（参考）[年度末個人未収金の状況]

区分	合計
平成26年度末	278,892,775円
平成25年度末	303,562,357円
差引	-24,669,582円

[こども医療センター]

- ・クレジットカードによる入院費用支払保証書の提出を受け、月初や退院時の会計手続を不要とするサービスに積極的に取り組むことで未収金の発生を抑止している。

イ 費用の削減

材料費節減の取組（小項目55）

- ・後発医薬品の品目採用率及び金額採用率は、前年度と比較して上昇した。

（参考）[後発医薬品の品目採用率及び金額採用率の実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
後発医薬品の品目採用率	12.2%	12.8%	13.4%	14.3%	16.8%
後発医薬品の金額採用率	5.6%	5.7%	5.1%	5.1%	6.4%

- ・医薬品、検査試薬及び診療材料について、ベンチマークシステムを活用し、他医療機関の購入価格の調査を行い、共同あっせん調達を実施した。また、診療材料については神奈川リハビリテーション事業団を含めて調達を行い、スケールメリットを生かした入札を進めた。

医薬品値引率 上期：13.3% 下期：13.8%

検査試薬値引率 31.3%

診療材料値引率 49.7%

- ・消耗品の共同購入について採用品目を54品目から73品目に拡大を図った。
- ・医療機器について、シリンジポンプの共同購入を行い、経費の節減を図るとともに、事務執行を効化した。

(参考) [病院別の後発医薬品の採用率の内訳]

区分	品目数	金額
足柄上病院	16.0%	12.7%
こども医療センター	7.8%	2.9%
精神医療センター	13.3%	4.1%
がんセンター	14.1%	7.0%
循環器呼吸器病センター	17.9%	8.8%
合計	16.8%	6.4%

経費節減の取組 (小項目56)

- ・電力調達について、足柄上病院、こども医療センター及び循環器呼吸器病センターにおいてP P Sとの契約を進め、電力料金の節減に努めた。
- ・入院及び外来延患者数の平均値は+3.8%であり、電力の使用量増加率 2.7%を上回った。

[こども医療センター]

- ・成功報酬契約のコンサルタントを導入し、他医療機関の購入価格と比較できるベンチマークシステムを活用することにより、契約単価の見直しを行い、費用を縮減した。
- ・コンピュータ断層撮影装置の処分において、入札を行い、廃棄処分費用を節減すると共に収入を得た。

第3 決算の状況 (小項目57)

- ・県立病院機構全体の経常収支比率は99.8%となった。
なお、医業収益に対する給与費の比率は61.7%、医業収支比率は122.2%となった。

[決算状況]

- (1) 県立病院機構全体
経常収支比率 99.8%
医業収益に対する給与費の比率 61.7%
医業収支比率 122.2%
総損益 1,585百万円
- (2) 足柄上病院
経常収支比率 97.1%
医業収益に対する給与費の比率 69.7%
医業収支比率 126.0%
総損益 203百万円
- (3) こども医療センター
経常収支比率 105.0%
医業収益に対する給与費の比率 65.8%
医業収支比率 119.5%
総損益 743百万円

- (4) 芹香病院
 経常収支比率 100.4%
 医業収益に対する給与費の比率 125.6%
 医業収支比率 172.4%
 総損益 343百万円
- (5) せりがや病院
 経常収支比率 107.8%
 医業収益に対する給与費の比率 113.2%
 医業収支比率 182.1%
 総損益 420百万円
- (6) がんセンター
 経常収支比率 96.6%
 医業収益に対する給与費の比率 44.4%
 医業収支比率 115.1%
 総損益 1,203百万円
- (7) 循環器呼吸器病センター
 経常収支比率 102.4%
 医業収益に対する給与費の比率 53.8%
 医業収支比率 118.1%
 総損益 134百万円

(参考) [収支計画]

区分	経常収支比率					医業収益に対する給与費の比率				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
県立病院機構全体	100.2%	100.8%	101.4%	99.5%	98.9%	70.5%	70.6%	69.4%	65.4%	62.2%
足柄上病院	94.0%	95.8%	98.6%	99.4%	97.6%	78.8%	78.5%	77.9%	71.6%	71.3%
こども医療センター	105.3%	102.1%	103.9%	105.0%	103.0%	71.4%	74.8%	69.9%	66.7%	66.7%
芹香病院	95.8%	96.5%	98.9%	99.0%	98.1%	120.8%	119.0%	134.5%	115.5%	124.4%
せりがや病院	94.3%	94.6%	95.2%	96.5%	83.0%	138.6%	133.7%	132.4%	118.2%	133.7%
がんセンター	99.6%	103.6%	103.0%	94.6%	98.4%	56.1%	54.8%	54.5%	53.2%	43.8%
循環器呼吸器病センター	99.7%	106.9%	107.4%	108.9%	103.7%	60.6%	53.1%	52.3%	49.7%	51.0%
区分	医業収支比率									
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
県立病院機構全体	131.5%	128.1%	126.4%	125.1%	123.5%					
足柄上病院	138.0%	138.8%	130.1%	125.7%	125.8%					
こども医療センター	129.1%	131.1%	124.9%	121.5%	121.9%					
芹香病院	168.9%	165.3%	182.9%	160.4%	175.7%					
せりがや病院	188.9%	184.3%	181.7%	165.9%	175.9%					
がんセンター	121.7%	115.7%	115.1%	122.9%	113.0%					
循環器呼吸器病センター	128.2%	116.4%	113.0%	109.4%	114.6%					

(参考) [決算状況]

区分	経常収支比率					医業収益に対する給与費の比率				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
県立病院機構全体	103.2%	100.1%	102.1%	101.2%	99.8%	67.9%	71.8%	69.2%	64.7%	61.7%
足柄上病院	99.2%	96.6%	98.4%	98.3%	97.1%	78.0%	80.9%	76.1%	71.1%	69.7%
こども医療センター	107.5%	103.2%	101.7%	103.4%	105.0%	70.7%	73.0%	72.4%	69.8%	65.8%
芹香病院	98.7%	90.4%	97.2%	102.6%	100.4%	116.6%	133.5%	139.3%	120.8%	125.6%
せりがや病院	100.2%	102.2%	99.3%	92.2%	107.8%	129.4%	125.0%	125.9%	116.7%	113.2%
がんセンター	104.0%	101.1%	107.9%	101.5%	96.6%	53.6%	57.9%	52.2%	48.2%	44.4%
循環器呼吸器病センター	104.0%	105.0%	103.3%	102.7%	102.4%	51.7%	54.6%	55.1%	52.6%	53.8%

区分	医業収支比率				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
県立病院機構全体	126.1%	129.2%	125.4%	124.1%	122.2%
足柄上病院	135.5%	136.3%	129.4%	128.0%	126.0%
こども医療センター	126.0%	128.9%	128.7%	124.8%	119.5%
芹香病院	167.7%	184.9%	193.7%	165.8%	172.4%
せりがや病院	182.8%	176.0%	180.7%	177.4%	182.1%
がんセンター	114.3%	119.1%	109.1%	114.0%	115.1%
循環器呼吸器病センター	120.1%	118.0%	119.4%	120.1%	118.1%

第4 その他業務運営に関する重要事項 (小項目58)

人事に関する事項

(1) 適切な職員配置について

- ・平成26年4月1日に採用した事務職員については、本部事務局では総務企画課1人、職員課1人の計2人を配置したほか、各病院の診療報酬等の医業収益確保を図るため医事課に2人、企画部門の機能強化を図るため経営企画課に3人、総務課に2人を配置した。
- ・精神医療センターの総合整備やがんセンターの重粒子線治療装置の導入に向けた体制の充実など、医療ニーズや医療環境の変化等に的確に対応するとともに、円滑な病院運営を行うために、平成26年度中に正規職員285人(医師79人、看護師172人、コメディカル職種15人、事務19人)を採用した。

(2) 的確な人事管理について

- ・評価者研修の実施などにより人事評価システムの適切な運用に努めるとともに、人事評価実施に伴う職員への面談などを通して職員の能力開発や人材育成への活用を図った。